

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.158

2006年7月

第47回名太祭「夢源」が開催される



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 目次

●ニュース	
第47回名大祭「夢源」が開催される	2
名誉教授称号授与式・懇談会が開催される	4
平成18年度科学技術振興調整費新規課題に採択される	5
第9回経営協議会が開催される	6
キャンパスクリーンウィーク実施	6
名古屋大学出版会が平野総長を表敬訪問	6
赤崎 勇本学特別教授がジョン・バーディーン賞を受賞	7
山本 尚本学名誉教授のテトラヘドロン賞受賞が決定	7
平野総長が全学教養科目で講義	8
フォレスト竣工記念式典を挙げる	8
平野総長が医学部保健学科校舎を視察	9
体育会社行会が挙行される	9
平成18年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催	10
●知の未来へ	
フィールドワークに基づく言語研究	11
加藤 高志（大学院国際開発研究科助教授）	
●教育のデザインとプラクティス	
現代日本語コース 中級聴解 Web・CD 教材の開発	12
石崎 俊子（留学生センター日本語教育メディア・システム開発部門助教授）	
佐藤 弘毅（留学生センター日本語・日本文化教育部門講師）	
●世界につながる	
地震火山・防災研究センターとバンドン工科大学の共同による2006年5月27日	14
ジョグジャ地震の緊急地震調査 木股 文昭（大学院環境学研究科教授）	
●部局ニュース	
新中央診療棟完成記念式典及び祝賀会を挙げる	16
エコトピア科学研究所設立記念式典及び設立記念国際シンポジウムを開催	17
チュラロンコン大学とスコタイ タマチラート オープン大学が教育発達科学研究科を視察	18
第4回生徒会フォーラムを開催	18
シンポジウム「実務法曹として『読む・書く・話す』能力をどう教育するか」を開催	19
第5回トランスレーショナルリサーチ懇談会を開催	19
中国陝西師範大学学術調査団が文学研究科を視察	20
第11回理学懇談会「宇宙開闢から現在へ Z=0-1-1000…」を開催	20
ICCAE 2006年度第3回オープンセミナー開催	20
第6回名古屋国際数学コンファレンスを開催	21
公開講座「恐怖を読み解く―日々の生活から国際政治まで―」を開催	21
中越地震の支援のあり方を考えるフォーラムを開催	22
第19回防災アカデミーを開催	22
第7回全国共同利用情報基盤センター長会議を開催	23
第8回8大学情報系研究科長会議を開催	23
情報科学研究科で外部評価委員会を開催	23
ノーベル賞受賞記念碑及び記念樹の案内板を設置	24
「親子天体望遠鏡教室」が開催される	24
アザラシ型ロボット「パロ」が寄贈される	25
流鏝馬が附属中・高等学校の運動場で行われる	25
●名大を表敬訪問された方々 [平成18年3月16日～6月15日]	26
●受賞者一覧	28
●本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年5月16日～6月15日]	32
●INFORMATION	
平成18年度名古屋大学公開講座	36
●イベントカレンダー	38
●ちょっと名大史	
日本学士院賞と名古屋大学	40

# 第47回名大祭「夢源」が開催される





	2	3
	4	5
1		

- 1 後夜祭  
「彩終章 ～The Next Dream～」
- 2 模擬店ストリート
- 3 名古屋大学吹奏楽団の演奏
- 4 第44回名大祭茶会
- 5 ストリートパフォーマンス

第47回名大祭が、6月1日（木）午後から4日（日）まで、「夢源」をテーマに開催されました。今年のテーマである「夢源」には、個々が持っている「夢」について改めて考え、自己表現する無限の可能性をもった大学祭になるように、との思いが込められています。

毎年恒例のプレ企画である仮装行列は、5月21日（日）に実施しました。当日は、「仮装行列2006～あなたとなりで歩きたい～」と題して、多くの本学学生が、名古屋市科学館の南にある白川公園を起点とし、若宮大通、大津通、広小路通、伏見通と練り歩き、6月開催の名大祭をアピールしました。午後は白川公園で、仮装行列参加者による仮装のままの運動会も開催され、参加者らは、優勝を目指して張り切っていました。

また、5月26日（金）から27日（土）にかけて、名古屋スポーツセンターで実施された「祭前線 徹夜でスケート

\*2006∞氷上 Night は夢源大∞には、荒川静香さんのオリンピックでの活躍の影響もあり、例年以上の学生が参加し、名大祭本番へ向けて盛り上がりを見せていました。

期間中は、演劇、合唱、伝統芸能、絵画等学内の部活、サークルの発表が多く行われたほか、研究公開、学術講演等も実施され、本学の教育研究活動の一端をわかりやすく紹介していました。豊田講堂前特設ステージでは、第30回グリーンフェスティバルをはじめ、数多くのバンドライブ等が行われ、演奏者と聴衆が一体となって名大祭を満喫していました。また、第2グリーンベルトステージ及び豊田講堂内でも催物が行われ、多くの観客から盛んな拍手を集めていました。

中でも、名大祭初日の6月1日（木）、第3グリーンベルトにおいて行われた、今回初企画の「第1回盆おDoり～名大祭にこやあ!!～」は、近隣町内会の方々とタイアップして実施した企

画で、親子連れの方々など多数来場され、盆踊りを楽しんでいました。また、子ども向けゲームコーナーが設けられ、参加した子ども達は緑日気分を満喫していました。定番企画である、模擬店ストリートには、多くのフリーマーケットが出店し、どのお店も多数の来場者で賑わっていました。

他にも、学内の合唱団体による「名古屋大学合同合唱祭」、基礎体力測定等の検査を受けることができる「模擬病院2006」、本学応援団が中心となって毎年開催されている恒例の「The 40th Fire Storm」など、多種多様な企画が実施されました。

今回は天候にも恵まれ、多数の来場者が名大祭を楽しみました。

最終日に行われた最後の企画である「彩終章 - The Next Dream -」では、栗本直樹名大祭本部実行委員会委員長から閉祭のあいさつがあり、無事第47回名大祭の幕が閉じられました。

# 名誉教授称号授与式・懇談会が開催される

名誉教授称号授与式が、5月19日（金）、豊田講堂第1会議室において行われました。

名誉教授の称号は、本学教授として7年以上勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった方に授与するもので、今回新たに27名（新制計901名）の先生方に授与されました。

式には、新名誉教授のうち18名が出席し、平野総長から一人一人に証書が授与され、永年にわたり本学の教育・研究の発展に多大なる貢献をしたことへのお礼とお祝いのごことが述べられた後、新名誉教授を代表して小林邦彦先生からお礼のあいさつがありました。

引き続き、名誉教授懇談会が、シンポジオンホールにおいて、約110名の参加を得て開催されました。懇談会は、新名誉教授の紹介で始まり、昨秋及び今春の叙勲受章者、役員・部局長等の紹介に続いて、平野総長からあいさつとこの一年の本学での動き等について報告がありました。その後、松尾稔前総長の発声で乾杯が行われ、終始和やかな雰囲気の中、歓談が行なわれました。



授与式の様子



集合写真

この春、新たに名誉教授になられたのは、次の方々です。

大学院法学研究科  
 大学院経済学研究科  
 大学院理学研究科  
 大学院理学研究科  
 医学部保健学科  
 医学部保健学科  
 医学部保健学科  
 医学部保健学科  
 大学院医学系研究科  
 大学院医学系研究科  
 大学院医学系研究科  
 大学院工学研究科  
 大学院工学研究科  
 大学院工学研究科  
 大学院工学研究科  
 大学院工学研究科  
 大学院工学研究科  
 大学院生命農学研究科  
 大学院生命農学研究科  
 大学院国際言語文化研究科  
 大学院環境学研究科  
 大学院環境学研究科  
 大学院環境学研究科  
 大学院環境学研究科  
 大学院環境学研究科  
 太陽地球環境研究所  
 留学生センター  
 物質科学国際研究センター  
 先端技術共同研究センター

森 英 樹  
 友 杉 芳 正  
 石 井 一 成  
 三 田 一 郎  
 猪 田 邦 雄  
 小 林 邦 彦  
 森 田 せつ子  
 渡 邊 憲 子  
 石 垣 武 男  
 伊 藤 勝 基  
 勝 又 義 直  
 宇佐美 勉  
 曾 我 丈 夫  
 高 木 克 彦  
 中 村 正 秋  
 細 江 繁 幸  
 道 家 紀 志  
 横 田 浩 臣  
 田 野 勲  
 板 倉 達 文  
 大 川 陸 夫  
 藤 井 直 之  
 松 原 輝 男  
 村 木 綏 人  
 尾 崎 明 人  
 今 榮 東 洋子  
 森 滋 勝  
 （敬称略）

# 平成18年度科学技術振興調整費新規課題に採択される

文部科学省において一般公募されていた「平成18年度科学技術振興調整費新規課題」が選定され、本学から下記の事業が採択されました（参画機関として採択された分を含む）。科学技術振興調整費は、総合科学技術会議の方針に沿って文部科学省が運用を行う、政策誘導型の競争的資金として下記の事項に活用することとなっています。

1. 総合科学技術会議の司令塔機能の強化
2. 人材の創造力発揮とイノベーション創出のための科学技術システム改革
3. 国民のニーズ等に対応した戦略的研究開発の推進
4. 科学技術活動の戦略的国際化の推進

## 【プログラム：若手研究者の自立的な研究環境整備促進】

（採択件数9／提案件数41）

世界で戦える研究者を育成するため、若手研究者の自立のための環境整備に組織的に取り組んでいる研究機関がテニューア・トラックを導入する取組を支援することにより、活力ある環境整備の形成を目指す。

課題名称：名大高等研究院研究者育成特別プログラム  
 総括責任者：平野眞一総長  
 代表者：芝井 広高等研究院教員

## 【プログラム：先端融合領域イノベーション創出拠点の形成】

（採択件数15／提案件数46）

イノベーションの創出を可能とし、次世代を担う研究者・技術者を育成する機能を備えたシステムを実現することを通じ、10～15年後に新たな産業の芽となる先端技術を確立するため、実用化を見据えた基礎的段階から、産学が協働して先端融合領域における研究開発を推進する。

課題名称：分析・診断医工学による予防早期医療の創成  
 総括責任者：平野眞一総長  
 代表者：本多裕之工学研究科教授  
 協働機関：日本ガイシ株式会社、オリンパス株式会社、富士通株式会社、伊藤忠商事株式会社

## 【プログラム：重要課題解決型研究等の推進】

国家的、社会的に重要な政策課題であって、単独の府省では対処が困難であり、政府として速やかに取り組むべき課題について、産学官の複数の研究機関による総合的な推進体制の下で、具体的な達成目標を設定し研究開発を推進する。また、科学技術政策に必要な調査研究を実施する。

### （1）重要課題解決型研究

持続可能な流域環境管理技術の開発

（採択件数1／提案件数22）

課題名称：伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術の開発  
 代表者：辻本哲郎工学研究科教授

参画機関：国土技術総合研究所、国立環境研究所、土木研究所、農村工学研究所、水産工学研究所、養殖研究所

### 国際テロ・犯罪からの安全を確保する先端科学技術研究

（採択件数1／提案件数11）

課題名称：生物化学テロにおける効果的な除染法の開発

代表者：瀬戸康雄科学警察研究所室長

（本学担当者：西田芳弘工学研究科助教授）

参画機関：産業技術総合研究所、名古屋大学、関東学院大学、佐賀県産業技術センター、GLサイエンス、アクティスカンパニー

### （2）科学技術政策に必要な調査研究

ライフサイエンスやナノテクノロジー等の先端科学技術が社会に与える影響の調査研究（採択件数2／提案件数6）

課題名称：ナノテクノロジー影響の多領域専門家パネル

代表者：原田幸明（独）物質・材料研究機構エコマテリアル研究センター長

（本学担当者：黒田光太郎工学研究科教授）

参画機関：国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、名古屋大学

### 統合・代替医療の科学的評価手法の調査研究

（採択件数4／提案件数17）

課題名称：鍼灸・漢方の疾患予防効果を中心とする評価手法の開発・確立

代表者：仁田新一東北大学加齢医学研究所教授

（本学担当者：大澤俊彦生命農学研究科教授、内田浩二同助教授）

参画機関：京都大学、名古屋大学、明治鍼灸大学、慶應義塾大学

## 【プログラム：アジア科学技術協力の戦略的推進】

アジア諸国、特に中国、韓国、インドやASEAN（アセアン）諸国とのオープンで対等なパートナーシップを拡げることにより、我が国が地域の科学技術の発展を先導する。特に、地域共通課題の解決やグローバルな問題に対するアジアとしての貢献（環境・エネルギー、防災、感染症等）、アジア地域発の科学技術の創出とこれらの分野を得意とする科学技術人材層の蓄積を通じて、アジア地域の優位性の確保を図る。

### 地域共通課題解決型国際共同研究

（採択件数10／提案件数126）

課題名称：バイオウェイストのリファイナリー型資源化

代表者：長谷川達也エコトピア科学研究所教授

## 第9回経営協議会が開催される



経営協議会の様子

第9回経営協議会が、6月11日（日）午後、名古屋市内のホテルを会場として開催されました。

会議では、平野総長のあいさつの後、平成17年度決算、平成17事業年度に係る業務の実績に関する報告、法科大学院認証評価（予備評価）、平成19年度概算要求、資金管理規程の制定及び資金管理運用方針の策定、減損会計導入に伴う会計規程の一部改正について、それぞれの担当理事から説明が行われ、審議の結果、了承されました。

また、外部委員からは、業務実績評価や認証評価制度のあり方等について、貴重なご意見が多数寄せられました。

続いて、名古屋大学基金、外部資金の受入状況、平成17年度施設整備状況について、担当理事から説明が行われました。

なお、次回の経営協議会は、今年11月に開催する予定です。

## キャンパスクリーンウィーク実施



キャンパスクリーンの様子

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月5日（月）から9日（金）まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、名大祭終了後の構内の環境美化のために、平成4年から毎年実施されているものです。また、キャンパスクリーンウィークのほかに、名大祭実行委員会を中心とした学生が、名大祭終了後には清掃等を行い、環境美化に努めています。

本部では、6月7日（水）午後、山口博行施設管理部長のあいさつの後、約100名の本部職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草等の刈り取り、不要な立看板・ビラ等の撤去などを行い、爽やかな汗を流しました。

## 名古屋大学出版会が平野総長を表敬訪問



表敬訪問の様子

名古屋大学出版会が、6月16日（金）、平野総長を表敬訪問しました。

これは、同出版会が、第59回中日文化賞を受賞したことの報告を兼ねて行われたものです。

中日文化賞は、学術、芸術の分野で文化の向上に貢献した各界推薦の候補者の中から、専門家の意見を参考に選考されるもので、今回は、4名と2団体が受賞しました。

表敬訪問には、同出版会の金井雄一理事長、伊藤八郎専務理事、橘宗吾編集部長が訪れ、受賞記念の品である、腕時計や賞状を紹介し、受賞の喜びを語りました。

なお、贈呈式は、5月30日（火）、中日ビル内中日パレスにおいて行われました。

## 赤崎 勇本学特別教授がジョン・バーディーン賞を受賞

あかさき いさむ  
赤崎 勇本学特別教授(名城大学教授)が、3月14日(火)、2006年ジョン・バーディーン賞を受賞しました。

ジョン・バーディーン(John Bardeen)博士は、1956年にトランジスターの発明によりショックレーらとともに1度目のノーベル物理学賞を、1972年に超伝導の発現機構を明らかにしたBCS理論により2度目のノーベル物理学賞を、と生涯に2度のノーベル賞を受賞した唯一の物理学者です。本賞は、同博士の名誉と偉大な功績を讃え、記念

するため、135年の歴史を持つ学会 TMS (The Minerals, Metals & Materials Society) が、1994年に創設した賞で、電子材料の分野で顕著な功績を挙げた科学者1名に毎年贈られるものです。

赤崎特別教授は13人目、日本人としては初めての受賞で、受賞理由は、現在幅広く研究・開発と実用化をもたらしている「窒化ガリウム及び関連材料分野」における先駆的研究と同分野における数々の重要な発見にあります。



赤崎教授のイニシャル IAが入った表彰楯(外面) 表彰楯(中面)



赤崎特別教授

## 山本 尚本学名誉教授のテトラヘドロン賞受賞が決定

やまもと ひさし  
山本 尚本学名誉教授(シカゴ大学教授)が、有機化学分野において優れた業績を取めた化学者に贈られる、2006年度テトラヘドロン賞を受賞することが決まりました。授与式及び受賞講演は、来年秋、ボストンで開催されるアメリカ化学会年会で行われます。

本賞は、イギリスの科学専門国際誌「テトラヘドロン」

のパーガモン出版(現エルゼビア出版)によって1980年に創設され、同分野で最も権威ある賞とされています。

山本名誉教授は、日本人では5人目の受賞で、過去22人の受賞者のうち、野依良治本学特別教授を含む4人が、ノーベル化学賞を受賞しています。受賞理由は、有機合成反応を立体選択的に制御、促進させる効果の高い酸触媒を開発したことで、医薬品や農業などの製造過程において、有害物質などの副産物を従来に比べ少量に抑える環境調和型触媒化学の発展に貢献したことによるものです。

なお、山本名誉教授の一時帰国にともない、6月14日(水)、本部1号館第2会議室において、記者会見が行われました。



会見での山本名誉教授

## 平野総長が全学教養科目で講義

平野総長は、5月16日（火）、6月6日（火）の2回にわたり、全学教養科目の講義を行いました。平野総長が学生に直接語りかける「総長講義」は、2004年度から実施されており、今回が3回目です。

1回目の「大学でどう学ぶか」の講義は、IB電子情報館大講義室において、約180名の学生を前に行われました。

講義では、平野総長より「私の学生時代、工学部教員の時代、いま総長として」と題した講演があり、受講した学生は普段身近に接する機会のない総長へ積極的に様々な質



講義する平野総長

問をしていました。

講義終了後、受講生が提出した感想文には、「総長の“挫折の経験を糧に今がある”、という話にとっても勇気づけられた。」「自分はまだ漠然とした夢しか持っていないけど、総長の話で、夢を持つことの大切さを感じた。」といった意見がありました。

2回目の「名大の歴史をたどる」の講義は、大学文書資料室が毎年開講しているもので、全学教育棟3C講義室において、約210名の学生を前に行われました。

講義は、「名古屋大学運営の基本姿勢」をテーマに、総説編（前身諸学校からの通史的な講義）と各説編（名大史ブックレット等を利用したテーマ別講義）の2部構成で進められました。

講義終了後、受講生が提出した感想文には、「講義は受けるものではなく、ものを考えるためのキッカケであるという言葉が印象に残った。」「名大の目指す方向性や教育理念などをよく知ることができた。これから自分が名大でどのような生活を送るのか、何を学ぶのかということが少し分かったような気がした」といった意見が数多くありました。今回の総長講義も過去2回と同様に受講生にとって極めて有意義なものとなったことがうかがえます。

なお、この総長講義の様子はDVDに収録されて、附属図書館の視聴覚資料として登録されています。

## フォレスト竣工記念式典を挙行

フォレスト竣工記念式典が、5月22日（月）、東山グリーンサロンにおいて、平野総長、福家名古屋大学消費生活協同組合理事長、理事、その他多くの関係者参列のもと挙



テープカットの様子

行されました。

式典では、平野総長より福家生協理事長に、第1理科系食堂を改築し寄贈いただいたことに対する感謝状が贈呈されるとともに、ご厚志が本学福利厚生施設のよりいっそうの充実に大きく寄与する、との謝意が述べられました。その後、フォレスト玄関において、平野総長、福家生協理事長、杉浦、杉山、豊田各理事、松澤生協学生生協委員長によるテープカットが行われ、引き続き、学内関係者による内覧会が行われました。

フォレストは、鉄骨造地上2階、建築面積350㎡、延床面積572㎡で、全国の大学生協で最大面積の理工書及び洋書の書籍売り場と、60席のカフェを併設しています。名称は公募により、今井同組合専務理事の発案である、「FOREST (FOR Eat & Study Talk)」に決まりました。

なお、フォレストの詳細は生協ホームページ (<http://www.nucoop.jp/shop/fronte06.html/>) をご覧ください。

## 平野総長が医学部保健学科校舎を視察

5月25日（木）、平野総長が、豊田理事、木村監事とともに、大幸地区に新営された医学部保健学科東館を視察しました。

同館は、鉄筋コンクリート造4階、建築面積1,020㎡、延床面積3,280㎡で、保健学科本館の改築計画の一環として建設され、平成18年3月に完成したものです。

平野総長らは、はじめに、山口施設管理部長から校舎の概要説明を受け、ときおり施設担当者への質問等を交えながら、河村保健学科長らの案内で校舎内を視察しました。

1階では、放射線技術科学専攻の学生実習室であるRI実験室、X線撮影室などを、2階、3階では、検査技術科学専攻の血液細胞・遺伝子研究室、P2室、P3室などを、4階では、全学共通施設である大講義室及び大学院講義室を丹念に見て回りました。

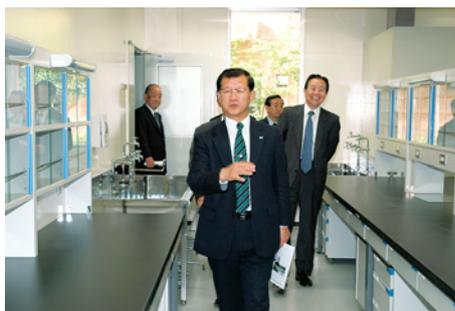
視察後、保健学科長室において、大幸地区の将来計画について意見交換も行われました。

### ●建物の概要

鉄筋コンクリート造4階建  
建築面積1,020㎡ 延べ面積3,280㎡



新営された保健学科の校舎



RI実験室を視察する平野総長、豊田理事、木村監事

## 体育会壮行会が挙行される

5月25日（木）午後5時から、豊田講堂前庭において、体育会壮行会が挙行されました。

これは、第60回大阪大学・名古屋大学対抗競技大会（通称：名阪戦）、第55回東海地区国立大学体育大会（通称：東国体）及び第45回全国七大学総合体育大会（通称：七大会）の3大会における本学の優勝を祈念して行う体育会合同の壮行会で、例年5月下旬に実施されています。



平野総長によるダルマの目入れ式

当日は、出席した各クラブの部員に対し、本学体育会会長である平野総長及び本学体育会副会長である杉山理事から、いずれの大会においても日頃の練習成果を遺憾なく発揮し、是非とも良い成績を納めて欲しい旨の激励がありました。これを受けて、戸中体育会委員長から、今年度の名阪戦及び東国体は主管校なので、主管校優勝を目指し、また、七大会についても上位進出を目標に、各クラブ一丸となって頑張ろう、と強い決意表明がありました。

その後、戸中委員長の抱えた「必勝ダルマ」への目入れ式が行われ、平野総長によりダルマの右目に黒々と墨が入られ、3大会の勝利を祈念しました。

目入れ式終了後は、各クラブの代表者から大会に臨む熱い決意が述べられた後、応援団による演舞が行われ、最後に参加者一同で、学生歌「若き我等」を熱唱し、壮行会を締めくくりました。

なお、各大会の期間は下記のとおりです。

名阪戦：主に5月中旬から7月上旬

東国体：6月24日（土）・25日（日）、7月1日（土）・2日（日）、8日（土）・9日（日）

七大会：主に7月中旬から9月下旬

## 平成18年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催

今年度の春季新入留学生歓迎懇談会が、5月29日（月）、フレンドリー南部において開催されました。

この懇談会は、今春本学に入学した留学生を歓迎するとともに、今後の留学生生活を実りあるものにするよう激励し、留学生と留学生関係教職員との懇談を通して、一層の相互理解・交流を深めることを目的として開催されたものです。



懇談会の様子

当日は、新入留学生、教職員など約300名の参加がありました。

最初に、平野総長から歓迎及び激励のあいさつがあり、その後、新入留学生を代表して、大学院国際言語文化研究科博士課程前期課程1年の包雲飛（中国）さん、経済学部研究生のShekhovtsev, Nickolay（ロシア）さんが、日本での留学について抱負を述べました。続いて、山本理事の発声により乾杯が行われた後、留学生が総長や教職員を囲んで、にこやかに記念撮影したり、歓談したりする姿が会場のあちらこちらで見られました。最後に、江崎留学生センター長の閉会のあいさつがあり、和やかな雰囲気の中、懇談会は終了しました。

# フィールドワークに基づく言語研究

大学院国際開発研究科助教  
加藤 高志



リス族の新年  
リス族の新年の踊り。中央にいるのは楽器の演奏者。その楽器の演奏に合わせて男女が手をつないで輪になって踊る。写真ではまだ男性が輪の中に入っていない。

現在世界で話されている言語の総数は7000ぐらいであると考えられています。そのうち多くの言語が、文字を持っていないか、文字を持っていてもほとんど使われていない、ということはあまり知られていないのではないかと思います。このような文字のない言語は、その多くが発展途上国に分布していること、文字データの蓄積がないこと、などの理由で、日本語や英語のような言語と比べて、研究者が少なく研究も進んでいません。私はフィールドワークに基づいて、このような文字のない言語、あるいは文字があってもほとんど使われていない言語の研究を行っています。

私が今まで研究してきたのは、タイとラオスの北部山岳地帯に住んでいる少数民族の言語です。この地域では主に、タイ系、オーストロアジア系、モン・ミエン系、チベット・ビルマ系という4つ



儀式  
新しいとうもろこしの収穫を祝う儀式の際に祝詞を唱えるリス族の男性とそれを録音する筆者。

の言語グループに属する言語が話されているのですが、私が研究してきたのはチベット・ビルマ系の言語、つまりチベット語やビルマ語と近い関係にある言語が中心です。

チベット語やビルマ語には文字があり、それで書かれた文献もたくさんあり、それに基づいて研究を行うことができるのですが、母語話者ではない私が、文字データの無い言語を研究する場合、自分で生の音声を聞いてそれを音声記号で書きとっていくことから始めなければなりません。これは大変根気のいる、時間のかかる作業です。

タイでは、リス語という言語の調査・研究を行ってきました。文字のない言語の研究では、どのようにして多くのデータを得るか、ということが重要な問題となります。私は、リス族の村において、日常会話、物語、儀式の際に唱える祝詞など多様な言語データをできるだけ多く収集するように努めてきました。このようなデータの分析と面接調査に基づいて、現在、リス語の文法書を書いています。

ラオスでは、アカ語、プノイ語、シラ語、ロコ語、ハニ語等の調査・研究を行ってきました。ラオスのチベット・ビルマ系の言語の中には、話者の数が2000人に満たない、消滅の危機に瀕した言語がいくつかあります。そのような言語を優先的に調査・研究しています。

## 現代日本語コース 中級聴解 Web・CD 教材の開発

石崎 俊子 留学生センター日本語教育メディア・システム開発部門助教  
 佐藤 弘毅 留学生センター日本語・日本文化教育部門講師

2005年4月より名古屋大学留学生センターの日本語教育メディア・システム開発部門が情報メディア教育センターと共同で留学生センターの日本語授業で利用されている『A Course in Modern Japanese』（名古屋大学出版会）の聴解のワークシート3冊の紙媒体とテープを Web または CD 化するという開発プロジェクトを手掛け、この春完成しました。優れた中級の日本語聴解教材が少ない中、上記の『A Course in Modern Japanese』は大変評判が良く、世界中の日本語学習者に使われています。一方で、何冊にも分けられていたワークシートとテープが使いにくい、テープの音の劣化が著しい、学習者に年々入手が難しくなるテープレコーダーの購入・貸付けを余儀なくさせていたなどの問題がありました。この開発は上記の問題を解決すべく1つの Web または CD 教材に構成することによって、学習者が自分のレベルにあった教材を容易に即座に引き出すことを可能とし、学習の動機を促進するとともに学習効果を上げるという大きなねらいがありました。しかしながら、ただ単に視覚情報と聴覚情報をまとめて、紙媒体の教材をコンピュータ上に表示するだけにとどまらず、コンピュータ教材ならではのインタラクティブな要素をふんだんに盛り込んだり、新しくビデオ動画を作成したりと大幅に改善されることになりました。

このコンピュータ教材の構成と様々な画期的な機能を紹介したいと思います。

- 46セクションと日本語聴解教材の中では稀に見る膨大な学習量を有しており、更に各セクションは、背景知識、単語、要点、要点練習、タスク、内容質問、復習、応用練習、スクリプトと学習者が無理なく段階を経て着実に学習していけるように分けられています。学習者のニーズにあった場所から始めることも可能であり、何度でも自分の知りたい部分、弱い部分を徹底的に追及できるように語学学習に最も効果的な環境を提供しています。
- 問題は選択問題、記入問題、ドラッグアンドドロップ問題、○×問題など多様揃えてあり、単純でつまらなくなりがちな語学学習を画期的なものにしています。学習者は問題に解答した後、即座に自分の間違いをチェックでき、



トップページ

正答を確認できます。更に、問題に解答する度に成績が履歴に残り、自分の成績を簡単に把握できると同時に間違っただけ問題をやり直したり、1ページだけをやり直したりなど選択できます。教室で教師1人によって行われる授業では困難な、語学学習に最も必要とされる学習者個々のペースや学習スタイルに合った語学学習が、納得いくまでできます。

- 聴解教材ですので、もちろん音声は殆どのページに含まれています。特に復習とスクリプトのページには音を細かく分割してボタンを押して学習者が聞きたい部分だけ即座に聞けるという配慮がされており、これは学習者のみならず今まで授業中に音の頭出しに苦労されていた教師にも賞賛される画期的な機能と言えます。

以上挙げた部分はほんの1部分でまだまだ様々な機能や工夫を備えている教材です。是非下記のURLに行って試してください。この教材は広く学外、特に海外の学習者にも利用してもらいたいと思っています。そのための実費徴収を現在検討しています。秋にはWeb版、CD版ともに学外にも提供できる予定です。http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~ijlc/（現在名古屋大学内のみ閲覧可能です）

今後の課題としては、授業との連携を一層円滑にするために、学習者が入力した解答やその正誤記録、所要時間など教師が学習者の学習状況を把握でき、学習計画の構築に活用できる学習環境マネージメントシステムをこの教材に構築することを目指しています。



セクションの学習ページの例

1991年米国カンザス大学大学院教育研究科修士課程修了。その後英国リーズ大学東アジア学部講師。在職中2000年英国リーズ大学大学院教育研究科修士課程修了。2004年11月より現職。日本語教育のためのメディア・システム開発・研究に取り組んでいる。

いしざき としこ



2006年3月東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了。博士（工学）。2005年6月より現職。日本語教育メディア・システム開発部門と共同で、IT技術を用いた日本語学習支援システム、eラーニングシステムの研究・開発を行っている。

さとう こうき



# 地震火山・防災研究センターとバンドン工科大学の共同による 2006年5月27日ジョグジャ地震の緊急地震調査

木股 文昭 (きまた ふみあき) 大学院環境学研究科教授

## インドネシア 今度はジャワ島の内陸で地震

20万人の犠牲者となった2004年スマトラ地震からまだ一年半しか経過していない。今度はジャワ島中部ジョクジャカルタ周辺を地震が襲いました。米国地質調査所 USGS はジャワ島の海岸、深さ47km が震源と伝えました。3000余名の犠牲者が報じられてきました。

ジャワ島は日本列島と同様にプレートの沈み込み帯に位置します。翌日、二人の日本の若手研究者は内陸の活断層の活動を示唆する地震発生メカニズムを明らかにしました。

## バンドン工科大学と連携し現地へ

地震火山・防災研究センターは、学术交流するバンドン工科大学 ITB に直ちに連絡しました。バンドンはジョクジャから300km も離れながら、彼らは地殻変動を検出する GPS 観測を直ちに準備していました。スマトラ地震で私たちは ITB と密接に協力し、アチェでの GPS 観測を実施しています。その経験がただちに生かされたようです。私たちは ITB で実施できない地震観測の準備に取り掛かりました。

6月4日に現地に入りました。大きなホテルが営業を停止し、宿が確保できません。ITB の Mipi さんの実家に飛び込みました。午後、まずは現地の状況把握、道路は復旧ボランティアなどで大渋滞ながらどうにか車は動きます。



村の建物はほとんどが全壊したなか、村の入り口の門だけ、毅然として残っています。家を支えるはずのレンガの壁が家を破壊し、人々を打ちのめしたようです。ジョグジャカルタ県バンツールにて。

## 民家に頼み余震観測を開始

日本では人工ノイズを避けるため民家から離して地震計を設置します。しかし、インドネシアでは盗難が懸念されます。スマトラ地震では、GPS 観測点の金属標識が測量直後に紛失したこともあります。地震観測点に4日間も人は配置できません。逆に、住民に頼み、人家の脇に地震計を設置しました。ノイズの小さなデータでも紛失しては研究になりません。観測点でも、瓦が滑り落ち、扉が傾いています。モスクにも設置しました。

観測中にも余震を感じました。私たちや ITB の地質学者の調査でも、地表に断層は認められません。動いた断層の規模を推定する上で、余震観測は重要になっています。

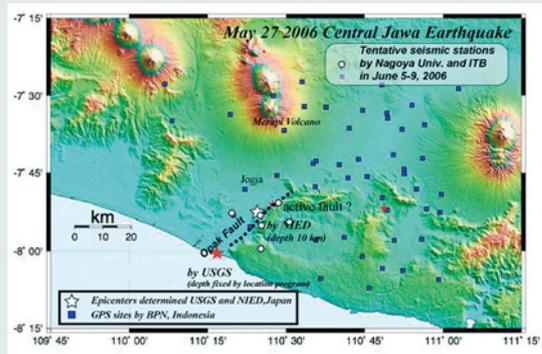
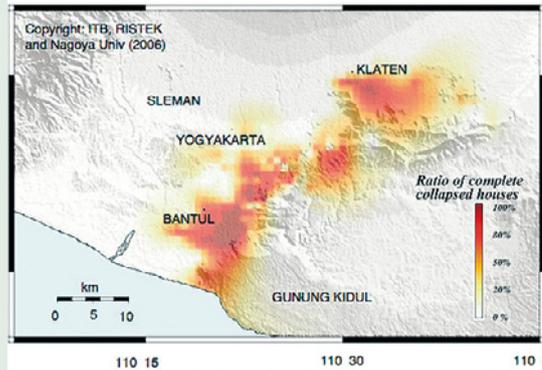
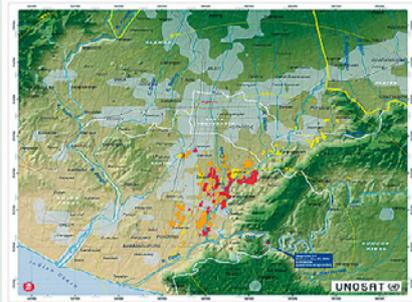
4日間で観測を終え、現在、解析しています。余震は、想像以上に多く、100個を上まわる数が観測されました。

## まるで濃尾平野と養老断層

海岸からオパック川に沿い、オパック断層が北東方向に伸びています。断層の東側が山地となり、断層崖が発達し、高度差は500m もあります。この地形を利用し、テレビの中継塔が断層上に並んでいます。崖からジョクジャの平野部、活発な噴火活動が続くメラピ火山が一望できます。まさに、養老断層の上から眺める濃尾平野です。



バンツールでの復旧支援を終え、村に戻るボランティア。2004年津波被害ではバンダアチェで頻繁に遭遇したシーンです。(6月4日ジョクジャにて、車内から撮影)



図上 UNOSATによる被害分布図 地震前後に撮影された衛星画像から被害を推定している。  
 図右上 全壊家屋率。全壊家屋の占める割合を0<20<50<80<100%の4段階で調査する。  
 図右下 名古屋大学とITBによる地震観測点とGPS観測点の配置。

### 全壊が目立つ集落

地震計の設置後に被害調査に入りました。インドネシアの民家を象徴する赤い屋根と白い壁、赤い屋根は瓦がずれ落ち、白い壁は跡形もなく倒れています。鉄筋も入れず、わずかのセメントでレンガを積み上げた壁は地震の揺れにあまりにも無防備だったようです。半壊の建物よりも全壊が圧倒的に多くを占めています。全壊の村もあります。全壊の横に無傷の建物もあります。

今回の地震で、UNOSATの活躍は目覚しく、地震直後から被害状況を衛星画像で推定しています。断層の西側に大きな被害が見つかっています。衛星画像では木々が邪魔をしたのか、林間の集落でも足を入れれば、大被害を被っています。

また、未調査の断層北東部、クラテンでも壊滅にちかい集落もあります。震源からかなり距離です。二つ目の地震が発生したのでしょうか、堆積層の厚い地盤でしょうか、津波パニックに陥らずに初期救出が成功したのでしょうか。

### インドネシアにも地震情報

観測中にインドネシア気象庁BMGによる地震情報をラジオやテレビで聞きました。もっとも地震発生から1時間後でした。

インドネシアの地震速報体制はスマトラ地震まで致命的に遅れていました。2005年はバンドアチエでも流れなかった地震情報がやっと動き出しました。現在、観測された地震のリストなどが公開されています。(http://www.bmg.go.id/map\_seis.asp)

### 背後に迫るメラピ火山の火砕流

ジョグジャは大変です。今回の地震だけでなく、町のシンボルとなっているメラピ火山が連日噴火し、火砕流が2-3kmも南西方向に流れています。まだ、犠牲者はないものの、ふもとの集落は避難しています。裾野が広がり、標高3000mものメラピ火山で山体崩壊でも生じると大災害が心配されます。メラピは世界遺産ポロブドールを火山灰で埋めたこともあります。

### 地元フィードバックする国際共同研究

インドネシアやフィリピンなどは日本と同様にプレート沈み込み帯に位置しています。巨大地震や津波、火山噴火といった災害が後を絶ちません。しかし、これらの国々では、大学に地震学講座はありません。アチエの地震津波以降、日本や欧米から津波早期警戒システムなどが援助されています。これらのシステムを有効に活用されるためにも研究者の育成がいつそう重要です。私たちが、この観点からさらに積極的に取り組みたいものです。

# 新中央診療棟完成記念式典及び祝賀会を挙行

●医学部附属病院

医学部附属病院は、6月3日（土）、同病院講堂において、新中央診療棟完成記念式典及び祝賀会を挙行しました。

同診療棟は、鉄骨鉄筋コンクリート造地上7階、地下2階、建築面積5,881㎡、延床面積43,612㎡で、建物の揺れを抑える免震構法を採用し、地下1階と2階の間に免震層を設けることにより、大地震時に人命の安全性を確保し、継続して医療活動を行えるよう設計されています。また、MRI画像誘導手術システムを備えた手術室、重度の患者様の全身管理と集学的・横断的治療を行うICU、遺伝子治療等の研究開発と臨床応用を行う遺伝子・再生医療センターなど最先端の施設・設備を設置するとともに、患者様のアメニティーにも十分配慮した先進的機能を備えています。同診療棟は、昨年6月に完成し、今年1月には手術部、ICU等が、5月には救急部、総合診療部、放射線部（X線撮影・CT検査室）及び患者様が自由に医学・医療の情報を集めることのできる患者情報センター「広場ナディック」や、患者様用図書室「つくし文庫」等がそれぞれ業務を開始しました。今後、放射線部（MRI検査室、RI検査室）、検査部が逐次移転し、10月には本格稼働の予定です。

式典には、学外から、木村隆秀衆議院議員、岡本充功衆議院議員、土井真樹衆議院議員、伊藤忠彦衆議院議員、大塚耕平参議院議員、岡 誠一文部科学省文教施設企画部施設企画課長、五十里 明愛知県健康福祉部健康担当局長、勝見康平名古屋市健康福祉局医監など関係省庁・自治体関係者ら約110名、学内からは、平野総長、濱口医学系研究科長、井口医学部附属病院長をはじめ約80名が出席し、盛大に同診療棟の完成を祝いました。平野総長から、「名古屋大学では、地域、企業、行政及び社会と連携して保健医療生活モデルを構築し、社会に提案するライフトピア構想の実現に向けて検討を進めており、高度な医療設備を有する21世紀の新しい病院として、患者様の人間性を尊重した医療サービスとプライバシーの保護など、広く地域住民の方々の信頼に答えられる基幹病院を目指しています。」との挨拶がありました。

式典終了後には、施設担当者の説明を受けながら、遺伝子・再生医療センター、免震構造及び緊急援助スペースとして屋上に開設予定のヘリポート等の施設を見学しました。

その後、山本明彦衆議院議員、馬渡龍治衆議院議員、佐藤泰介参議院議員、元本学総長の加藤延夫愛知医科大学理事長、祖父江逸郎元医学部附属病院長、中野 浩藤田保健衛生大学長らが出席して祝賀会が行われ、同診療棟の完成を祝い、和やかに歓談しました。



- |   |   |                                                          |
|---|---|----------------------------------------------------------|
| 1 |   | 1 あいさつする平野総長                                             |
| 2 | 3 | 2 大島文部科学省文教施設企画部長の祝辞を代読する岡文部科学省文教施設企画部施設企画課長             |
| 4 | 5 | 3 右から祖父江元医学部附属病院長、元本学総長の加藤愛知医科大学理事長、井口医学部附属病院長、濱口医学系研究科長 |
|   |   | 4 ヘリポートを見学する式典参加者ら                                       |
|   |   | 5 祝賀会で祝辞を述べる中野藤田保健衛生大学長                                  |

# エコトピア科学研究所設立記念式典及び 設立記念国際シンポジウムを開催

エコトピア科学研究所は、平成18年4月1日から附置研究所として文部科学省の認可を受けたのを記念して、6月12日（月）、シンポジオンホールにおいて、設立記念式典を開催しました。

記念式典では、平野総長のあいさつの後、結城章夫文部科学省事務次官、愛知県知事、名古屋市長、岡本尚武(財)電力中央研究所常務理事から同研究所への期待を込めた祝辞をいただき、その後、松井エコトピア科学研究所長による「エコトピア科学のめざすもの」と題する基調講演及び前田正史東京大学生産技術研究所長による「我が国の持続的発展とその限界」と題する記念講演が行われました。

式典には、同研究所と学術交流協定を締結している中国科学院過程工程研究所、韓国慶南大学校、米国メリーランド大学及びワシントン大学の関係者を始め、学内外から約200名の出席者がありました。

翌13日（火）は、シンポジオンホールにおいて、設立記念国際シンポジウム「エコトピア科学研究の国際的開放型融合研究拠点形成をめざして」を開催しました。

シンポジウムでは、山本副総長のあいさつの後、安井 至国連大学副学長、モハメット・サリカヤ ワシントン大学遺伝子工学材料科学工学センター長、陳運法中国科学院過程工程研究所副所長、李燦源韓国慶南大学校教授、ローレンツ・ヒルティ スイス連邦材料試験研究所室長、川合知二大阪大学産業科学研究所長の講演が行われ、150名を超える参加者は熱心に耳を傾け、エコトピア科学に対する関心の高さが伺われました。



式典の様子

## 名古屋大学エコトピア科学研究所・設立記念式



あいさつする平野総長

## 名古屋大学エコトピア科学研究所・設立記念式



あいさつする松井エコトピア研究所長



シンポジウムの様子

## チュラロンコン大学とスコタイ タマチラート オープン大学が 教育発達科学研究科を視察

大学院教育発達科学研究科は、5月9日（火）、タイ国のチュラロンコン大学からランシュワン教授をはじめ総勢29名からなる大学教職員の訪問を受け、高等教育機関としてのヴィジョンやミッションをはじめ、アドミッション・ポリシー、ファカルティ・マネジメントなどについて双方の研究機関の現状と今後のあり方について意見交換を行いました。

また、5月17日（水）には同じくタイ国のスコタイ タマチラート オープン大学からクティンラーラ教授をはじめ総勢27名の教授団の訪問を受け、同研究科の教育研究の概要説明の後、FD や SD、大学におけるカリキュラム

デザインや教授法の開発、品質保証のあり方、メディアを活用した教育評価などについて活発な意見交換が行われました。

一行はこの後、教育学部附属中・高等学校を見学した後、無事帰国の途につきました。

※ FD とは、ファカルティ・ディベロプメントの略で、日本の大学では教育改善のための組織的取り組みを指す言葉として用いられています。

※ SD とは、スタッフ・ディベロプメントの略で、大学のマネジメントをより円滑で効果的に遂行するための組織的取り組みを指す言葉として用いられています。



チュラロンコン大学の訪問団



スコタイ タマチラート オープン大学の訪問団

## 第4回生徒会フォーラムを開催

●教育学部附属中・高等学校

教育学部附属中・高等学校は、名大祭開催期間中の6月4日（土）、同校第1総合教室において、教育学部中等教育センターと附属学校生徒会執行部の共催で、第4回生徒会フォーラムを開催しました。

年々参加者が増え、今回も名古屋市とその近郊の高等学校から約100名の生徒会執行部員が集まりました。



生徒会フォーラムの様子

午前の部では、全体会が開かれ、同校を含む5校から、日頃の生徒会活動について報告がありました。パワーポイントやビデオを使った各校独自の趣向を凝らした発表に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

午後の部では、分科会に分かれ、テーマを絞って意見を出し合いました。第1分科会では、学校祭の企画立てについて、第2分科会では、学校祭の運営面について、第3分科会では、部活動のあり方について、そして第4分科会では、各学校での特色のある諸活動について、それぞれたくさんアイデアが出されました。

生徒会活動というと、ともしれば学校内の活動にとどまってしまう、ルーティーン作業から脱却するきっかけが乏しい傾向にありますが、他校の生徒会の活動から多くの刺激を受け、新しい道を開くよいきっかけになるとの声が参加者から毎年聞かれます。

また、設置形態を越え、国・公・私立学校が一同に集結する機会は、附属学校で開かれる生徒会フォーラムしかなく、横の繋がりを通じて、今まで考えたことのないような斬新なアイデアを求めて多くの生徒会執行部員が毎年楽しみにしている企画になってきています。

## シンポジウム「実務法曹として『読む・書く・話す』能力をどう教育するか」を開催

●大学院法学研究科

大学院法学研究科・法科大学院は、6月10日（土）、文系総合館カンファレンスホールにおいて、シンポジウム「実務法曹として『読む・書く・話す』能力をどう教育するか—効果的な教育方法の模索とIT教育ツール活用の可能性—」を開催しました。

今回のシンポジウムは、文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム「自分の技量を随時確認できる



シンポジウムの様子

多様な環境構築」プロジェクトの成果をもとに、「実務法曹として通用する読解・分析・表現能力をどのように教育すべきか」について、本学法科大学院の教育理念と教育実践を報告し、広く全国の法科大学院関係者とともに、よりよい法曹養成教育のあり方を模索するために企画されました。

シンポジウムは、<sup>なかや</sup>中舎法科大学院長の主催者挨拶と基調報告、松浦法学研究科長、千葉恵美子同研究科教授、鈴木将文同研究科教授による教育実践報告が行われた後、瀬川信久北海道大学教授、松岡久和京都大学教授、青木晋同研究科教授、赤根智子同研究科教授から報告に対するコメントがありました。続いて、報告者とコメントーターによるパネルディスカッションが行われ、その後、フロアを交え活発な意見交換が行われました。

当日は、近隣だけでなく北海道から沖縄まで遠方の法科大学院教員や裁判官・弁護士など実務家の参加もあり、わが国の法科大学院教育のあり方について活発な議論が交わされました。

なお、シンポジウムを含めた本プロジェクトの詳細は、<http://nls.nomolog.nagoya-u.ac.jp/> をご覧ください。

## 第5回トランスレーショナルリサーチ懇話会を開催

●医学部附属病院

医学部附属病院は、5月26日（金）、同病院講堂において、第5回トランスレーショナルリサーチ懇話会を開催しました。

この懇話会は、日本でのトランスレーショナルリサーチ（探索医療）の牽引的役割を担っている5大学1施設（東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び神戸先端医療振興財団）が、毎年一堂に会し意見交換を行



施設見学をする関係者

うことを目的として開催されているもので、今年は約130名が参加しました。

懇話会では、「先端医療開発の現状と展望」を主題に、池田千絵子文部科学省研究振興局ライフサイエンス課先端医科学研究企画官、佐々木孝治厚生労働省医政局研究開発振興課課長補佐、堀口光経済産業省商務情報政策局医療・福祉機器産業室室長、梶谷文彦川崎医科大学名誉教授・岡山大学特命教授及び吉田純同病院遺伝子・再生医療センター長による講演が行われ、引き続き、若林俊彦同病院遺伝子・再生医療センター助教授ら各機関の研究者から、それぞれの施設における現状報告が行われ、日本の先端医療開発の最先端情報について活発な議論が交わされました。

また、同病院新中央診療棟6階に設置された遺伝子・再生医療センターの機能を充実させ再整備した、バイオマテリアル調製部門の施設見学も行われました。本部門は、再生医療ユニット、細胞医療ユニット、遺伝子医療ユニット及び産学連携ユニットから構成され、このユニットで作製される臨床用製剤・細胞・組織は、国際標準化機構ISO9001:2000及びISO13485:2003の管理下で運用する体制を整えており、国際的な品質保証が確保されています。

## 中国陝西師範大学学術調査団が 文学研究科を視察



学術調査団との記念撮影

大学院文学研究科は、6月5日（月）、中国陝西師範大学の張 健祥副学長をはじめとする学術調査団5名の訪問を受けました。

調査団一行は、総長への表敬訪問等の後、文学部会議室において、町田文学研究科長、和田評議員、天野・神塚両副研究科長、江村治樹同研究科教授、重見晋也同研究科助教授と、互いの大学の現状について情報交換を行いました。また、今後の文学部・文学研究科との学術交流協定締結に向け、①研究者交流の促進、②国際シンポジウムの共同開催、③交換留学生制度の導入、等について熱心に懇談を行いました。

なお、同調査団は、同研究科の図書室を視察した後、野依記念物質科学研究館を見学するなど、学術研究施設を意欲的に視察し、早期学術交流の締結への強い意欲が感じられました。

## 第11回理学懇話会「宇宙開闢から 現在へ $Z = 0 - 1 - 1000 \dots$ 」を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、5月20日（土）、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、第11回名古屋大学理

学懇話会「宇宙開闢から現在へ  $Z = 0 - 1 - 1000 \dots$ 」を開催しました。

この懇話会は、各専攻が持ち回りで毎年2回開催しているもので、高校生からご高齢の方まで、学内外併せて150名以上の参加がありました。

懇話会では、國枝秀世同研究科教授による「X線衛星すざくの見た、星、銀河、銀河団-1000兆倍のスケールをたどる」及び杉山 直同研究科教授による「ビッグバンから銀河が生まれるまで-140億光年の時間をたどる」の講演を行い、見たことのない宇宙の始まりから銀河や銀河団など、果てしなく広がる宇宙観の話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。



講演する杉山理学研究科教授



講演する國枝理学研究科教授

## ICCAE 2006年度第3回オープン セミナー開催

●農学国際教育協力研究センター



講義をする時田氏

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、6月6日（火）、生命農学研究科B棟319号室において、「カンボジアにおける農業開発・農村開発に向けて-バタンバン農業生産性強化プロジェクト」と題し、2006年度第3回オープンセミナーを開催しました。

当日は、2003年4月から3年にわたりカンボジアのバタンバン地方で実施された農業プロジェクトのリーダーである国際協力機構（JICA）の時田邦浩氏による発表が行われました。

全人口の80%以上が農林水産業に従事し、農業生産がGDPの約4割を占め、作付面積の9割以上に稲を栽培しているカンボジアで、1995年には食料自給を達成しながら、なぜ農産物が不足しているのかとの問題意識から、水稻栽培技術の改善、農業生産の多様化（営農改善）、水利組合活性化支援、農村女性グループ活動支援を実施した結果、米の収量の増大が図られたなど、具体的成果を上げた活動事例が紹介されました。

## 第6回名古屋国際数学コンファレンスを開催

●大学院多元数理科学研究科

大学院多元数理科学研究科は、6月12日（月）より17日（土）までの6日間、野依記念学術交流館において、国際会議「Representation Theory of Algebraic Groups and Quantum Groups 06」を開催しました。

この会議は、同研究科が平成13年度より様々なテーマで毎年開催している名古屋国際数学コンファレンスの第6回



会議の様子

目にあたり、代数群や量子群の表現論についての最新の成果発表とともに、若手研究者の国際交流を目的として行われました。

会議には、国内外から約130名の研究者が参加しました。国外は、アメリカ、中国、韓国、オーストラリア、イギリス、フランス、デンマーク、ドイツなどから約50名が参加し、特に、中国から7人、韓国から7人、オーストラリアから5人など、アジア・オーストラリア地区から多くの参加者がありました。また、海外参加者の半数以上は大学院生、ポストドクター研究員が占めました。

会議では、中島俊樹同研究科助教による「Tropical R for affine geometric crystals」と題する講演に始まり、H.H. Andersen教授による「Some quotient categories of modular representations」と題する講演に至るまで、アフィン・ヘッケ環や、アフィン量子群の表現論、リー環のモジュラー表現論などを中心に、日本人講演者11名、外国人講演者12名の23名による熱気あふれる講演と活気ある討論が繰り返されました。

## 公開講座「恐怖を読み解く—日々の生活から国際政治まで—」を開催

●大学院国際言語文化研究科

今年度の大学院国際言語文化研究科公開講座が、6月14日（水）、文系総合館カンファレンスホールにおいて、始まりました。

同研究科は、諸言語、諸地域、諸分野の専門家を抱える利点を生かして、数年前から毎年、学際的なテーマで公開講座を開催してきました。今年は、日常生活から国際政治



講義を行う福田真人教授（第1回講座）

まで、現代世界の様々な局面における、顕在的・潜在的な「恐怖」を解明して、時代や地域、さらには文明全体の特徴さえつかみ出そうと試みました。

第1回は、近藤同研究科長による開講の辞に続き、福田真人同研究科教授による講義「恐怖と疾病」が行われ、30名を超す受講者との間に活発な質疑応答がありました。

第2回以降の講義は以下のとおり行われました。

- ・「テロルの構造—序論」（布施 哲同研究科助教）
- ・「現代イギリス社会に見られるマスメディアと恐怖」（エドワード・ヘイグ同研究科助教）
- ・「チャールズ・ブロックデン・ブラウンの恐怖小説を読む」（長畑明利同研究科教授）
- ・「村上春樹と暴力」（西川智之同研究科助教）
- ・「グールドはテロリストか？」（藤井たぎる同研究科助教）
- ・「西洋思想に見る恐怖」（飯野和夫同研究科助教）
- ・「西欧人男性の去勢恐怖と西欧世界」（松本伊瑛子同研究科教授）
- ・「フランス・ピレネー地方の家族と恐怖—「善良な未開人」か？—」（ギャランス・デュクロ同研究科助教）
- ・「民族の共生と恐怖—ユダヤ人の喜びと苦しみ—」（田所光男同研究科教授）

このように様々な角度から「恐怖」に切り込んだ本講座は、7月14日まで開催され、受講者に好評を博しました。

## 中越地震の支援のあり方を考えるフォーラムを開催

●災害対策室

中越地震の支援のあり方を考えるフォーラムが、5月28日（日）、環境総合館レクチャーホールにおいて、開催されました。本企画は、災害ボランティアの全国ネットワーク組織である「震災がつなぐ全国ネットワーク」が主催、「全国災害救援ネットワーク」が共催、内閣府・全国社会福祉協議会・名古屋大学が後援となっており、本学災害対策室が開催を支援しました。

「何をもって復興かを問う～人間力と地域力」をテーマに掲げ、新潟県中越地震の災害復興に関する話題を中心に、基調講演や分科会など、丸一日をかけて活発な議論が行わ

れました。地域防災・災害対応の最前線で活躍する専門家が全国から集まり、地元の熱心な防災ボランティアや学生も加わって、定員を超える135名の参加がありました。

災害直後の救援は注目を集めても、その後の長い時間を要する被災者の暮らしの再建や地域の復興は忘れられがちであり、災害の経験が風化することが多いといわれています。当日の議論を通して、参加者一人ひとりが、それぞれの立場で中越地震に関心をもち続けるとともに、次に来る災害に向けて地域で協力して準備をすることの大切さを確認していました。

本企画が、震災経験のある神戸や新潟ではなく、近い将来に東海・東南海地震による大災害が予測されている名古屋で開催され、全国から多数の参加者を集めたことは、大きな意味があるといえます。被災地で継続的に活動を続ける専門家、グループの経験を、東海地域の住民が将来に活かすための貴重な機会となりました。



パネルディスカッションの様子



分科会の様子

## 第19回防災アカデミーを開催

●災害対策室

第19回防災アカデミーが、5月25日（木）、環境総合館レクチャーホールにおいて、開催されました。防災アカデミーとは、災害対策室が主催する市民向けの防災講演会で、2003年からほぼ毎月開催しているものです。

今回は、勅使川原正臣環境学研究科教授による「鉄筋コンクリート造住宅の耐震性能」と題する講演が行われました。



第19回防災アカデミーの様子

講演では、近代建築物が建てられはじめた明治時代以降に発生した代表的な地震被害が紹介され、それを受けて建築設計基準がどのように変遷してきたか、また建物が地震のときにどのように壊れるのかについても、実物の建物による振動台実験の映像を交えた詳しい説明がなされ、多くの聴衆の関心を集めました。

会場には、あいち防災リーダー会のメンバーとして、地域の防災活動をリードしている方々など、学内外から75名の参加があり、盛況のうちに終了しました。

防災アカデミーでは、地震、火山、水害など様々な自然災害をとりあげています。講演者は、理学・工学など理系の研究者のみならず、心理学・歴史学など文系の研究者も招いており、幅広い視点から災害を学べるユニークな講演会となっています。

詳しくは、災害対策室ホームページ (<http://anshin.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/>) をご覧ください。

## 第7回全国共同利用情報基盤センター長会議を開催

●情報連携基盤センター



情報基盤センター長会議の様子

第7回全国共同利用情報基盤センター長会議が、5月24日（水）、愛知厚生年金会館において、本学を当番機関として、全国共同利用施設の情報連携基盤センター等8機関のセンター長、事務長のほか、松川憲行文部科学省研究振興局情報課長ら20名の出席のもと開催されました。

会議では、当番機関を代表して、渡邊豊英同センター長からあいさつがあった後、過去に開催された各種委員会の報告が行われました。

続いて、文部科学省の担当者より、「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における学術研究活動に対する当面の推進方策」、「学術情報基盤の今後の在り方について」等の説明があり、「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用プロジェクトの進捗状況並びに情報基盤センターとの連携について」、「最先端学術情報基盤の構築状況」等について、それぞれ活発な質疑応答や意見交換が行われました。

## 第8回8大学情報系研究科長会議を開催

●大学院情報科学研究科



情報系研究科長会議の様子

第8回8大学情報系研究科長会議が、5月26日（金）、本学大学院情報科学研究科を当番校として、メルパルクNAGOYAにおいて開催されました。

会議には、文部科学省の関係者をはじめ、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、大阪大学及び九州大学の情報系研究科長、副研究科長、並びに5大学の事務長等を含め26名が出席しました。

阿草同研究科長及び文部科学省関係者のあいさつの後、「大学入試に関わる情報科目」、「新たな教員組織制度導入への対応」、「各種倫理規程の策定状況」、「大学評価、大学院ア kredィテーション対応」などの議題について活発な議論が交わされました。

本会議は、有意義な意見交換の場として今後も開催を継続し、次回は北海道大学を当番校として開催される予定です。

## 情報科学研究科で外部評価委員会を開催



外部評価委員会の様子

大学院情報科学研究科は、6月6日（火）、7日（水）の2日間にわたり、平成15年4月の設置以来初の外部評価委員会を開催しました。

同委員会は、文系、理系及び産業界を代表する5名の委員で構成されており、丸岡 章石巻専修大学教授を議長とし、同研究科から阿草研究科長、横澤、石井各副研究科長、各専攻長及び各基幹委員会委員長らが出席しました。

初日は、阿草研究科長から同研究科の概要について説明があり、自己評価報告書に基づき、杉山企画評価委員長から教育研究活動の全体像について、また、各専攻長から各専攻の教育研究の具体的取組について説明が行われた後、研究施設等の視察が行われました。2日目は、初日の詳細な説明に基づいて質疑応答中心に進められ、文理融合型大学院としての人材育成とその展望及び教員組織の整備等について、活発な意見交換が行われました。また、同委員会の締めくくりとして外部評価委員から講評が行われ、同研究科に対する期待と要望が示されました。

## ノーベル賞受賞記念碑及び記念樹の案内板を設置

●博物館

博物館は、5月26日（金）、同館前庭に、野依良治本学特別教授によるノーベル賞受賞記念碑及び記念樹の案内板を設置しました。同記念碑及び記念樹は、野依特別教授が2001年ノーベル化学賞を受賞した際、設置されたものですが、案内板の設置は、キャンパス・ミュージアム構想の一環として行われました。

キャンパス・ミュージアム構想とは、樹木札の整備、寄附建物や記念碑などの解説案内板の設置、雑木林の中に散策路の整備、キャンパス東部にあった「八事-唐山古道」の復元等を行うことで、東山キャンパス全体を一つの大きな野外博物館としてとらえ、キャンパスを散策しながら東山の自然史と大学史の理解ができるようにするためのものです。

案内板には、日本語と英語で、「研究は瑞々しく単純明快に」と、野依特別教授の研究フィロソフィーが記念碑上部に彫りこまれていることや、形状が六角形でベンゼン環を模していることなどが説明されているほか、ノーベル賞受賞記念式典で、野依特別教授がアスナロの木を植樹している写真も付けられています。

6月初めに行われた名大祭では、足を止めて案内板を熱心に見る来場者の姿が多く見受けられました。



「ノーベル賞受賞記念碑および記念樹」の案内板

## 「親子天体望遠鏡教室」が開催される

●博物館

博物館は、6月4日（日）夜、同館屋上において、名古屋市科学館と連携して行っている地域貢献事業の一環として、「親子天体望遠鏡教室」を開催しました。

天体望遠鏡の使い方の指導は、本学理学部OBで名古屋市科学館天文学芸員の毛利勝廣氏をはじめ6名（うち4名は科学館の天文ボランティア）が担当し、10組の親子が小

型天体望遠鏡の使い方の習得にチャレンジしました。

参加者は、まず、テレビ塔や東山スカイタワーなどを見て望遠鏡の威力を実感し、その後、講義室で小型天体望遠鏡の原理と使い方をじっくりと学びました。講義室での天文解説では、星や月の話がクイズを交えて次々と登場し、子どもも大人も頭をひねっていました。そして、答のパターンが図示されると、なるほどという大きな歓声が上がっていました。また、上弦の月や下弦の月の解説には、「スポーツと名古屋大学」展で展示中の和弓も使われ、月と太陽がどういう位置関係になると上弦の月になるのか、「葉の花や月は東に日は西に」の俳句が作られた夕暮れ時には月はこう見えていたなどについて、分かりやすく解説され、参加者は天文学を身近に感じていました。

博物館では今後もこうした催しを行っていく予定です。



博物館屋上で小型天体望遠鏡の操作を練習する参加者

## アザラシ型ロボット「パロ」が寄贈される

●博物館

博物館は、6月9日（金）、同館館長室において、（株）知能システムより「パロ」が寄贈されたことに対する感謝状贈呈式及び記者会見を行いました。

「パロ」は本学工学研究科OBで、産業技術総合研究所の柴田崇徳主任研究員が、1993年に開発を始め、昨年からの（株）知能システムにより一般販売がされている体長57cm、体重2.7kgのアザラシ型ロボットです。「パロ」は、タテゴトアザラシの赤ちゃんをモデルにしており、体に組み込まれた接触センサーをはじめ30を超えるセンサーやモ

ーターにより、人が触れると鳴き声をあげたり、体を動かして反応します。現在、ペット用のほか、高齢者施設や小児病院のベッドサイドでの「癒しロボット」として導入されています。

記者会見では、柴田主任研究員から、「パロ」の特徴や利用の現状、開発の苦心談などが披露されました。

同館では、来館者が「パロ」に直接触れることができる展示ケースを準備し、公開しています。



西川館長と柴田氏



展示されている「パロ」



充電中のパロ

## 流鏝馬が附属中・高等学校の運動場で行われる

●博物館

博物館は、6月10日（土）、教育学部附属中・高等学校の運動場において、第9回特別展「スポーツと名古屋大学」の一環として、また、附属高校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の関連事業として、本学和式馬術部による流鏝馬を行いました。

和式馬術部は、経済学部の学生が中心となり、日本古来の流鏝馬を正しく理解し、伝統文化として継承していくことを目的として昨年誕生したものです。今回は、山梨県にある木曾馬牧場から木曾馬4頭を借り、民間の和式馬術同好会の応援を得て、創部後初めての流鏝馬デモンストレー

ションとなりました。

デモンストレーションでは、350名を超える見学者を前に、小倉脩平主将らが流鏝馬などの技を次々と披露しました。また、静止した木曾馬の上から60m先の的を射る「那須与一体験会」では、チャレンジした附属高校弓道部の生徒5人のうち1人が矢を見事に的中させ、観客からは、大歓声が上がりました。最後に行われた体験乗馬や体験流鏝馬には長蛇の列ができ、普段体験できない木曾馬とのふれあいを堪能していました。

また、同日午前、附属高校において、木曾馬研究の権威である富田 武本学名誉教授により、木曾馬についてのSSH関連講演が行われました。講演には、約50名の生徒と保護者の参加があり、軽妙な語り口で分かりやすい富田名誉教授の講義に熱心に耳を傾けていました。生徒たちは今回の木曾馬体験授業を踏まえ、木曾馬の展示骨格標本を使ったSSH授業を7月1日に博物館で受講しました。



流鏝馬の披露



講演する富田名誉教授

### 3.23 中国教育部・教育行政官訪日団

張泰青中国教育部発展計画局副局長（団長）、徐永吉同教育部国際交流・協力局課長、陳汶特同教育部機関サービス局課長、鄧伝淮同教育部事務庁課長、劉彦波同教育部発展計画局課長、郭膺同教育部事務庁係長、王俊同教育部財務局係長、于洋同教育部発展計画局主任及び宋艶軍同教育部事務庁係員が訪問され、本学の研究を中心とした学術活動の現状と留学生交流について意見交換が行われました。



### 3.24 駐日中国大使館教育処公使参事官等

李東翔駐日中国大使館教育処公使参事官、胡志平同一等書記官、張嘉蘭同一等書記官及び宋柏林同一等書記官が訪問され、本学と中国の学術交流活動の推進について懇談が行われました。



### 3.27 ジョモケニヤッタ農工大学長及びケニヤッタ大学長

ジョモケニヤッタ農工大学長及びケニヤッタ大学長が訪問され、同大学の学術活動の現状と本学の留学生受入状況等について懇談が行われました。

### 4. 4 ブラジル・マトゴロソ連邦大学長等

Paulo Speller マトゴロソ連邦大学長・教授、Antonio Augusto dos Santos Soares ブラジル銀行顧客管理部門マネージャー及び Duval de Vasconcelos Barros 在名古屋ブラジル総領事館領事代理が訪問され、本学とマトゴロソ連邦大学との学術交流の推進、遠隔教育の協力の可能性等について懇談が行われました。



### 4. 6 中国駐名古屋領事館長領事等

孫平中国駐名古屋領事館長領事及び白春華領事が訪問され、中国からの留学生の受入、学術交流協定の締結状況、中国における本学の学術交流活動の状況等について懇談が行われました。



### 4.12 駐日フランス大使及び在大阪・神戸フランス総領事

Gildas LE LIDEC 駐日フランス大使、同夫人及び Alain NAHOUM 在大阪・神戸フランス総領事が訪問され、フランスからの留学生の受入、AC21の活動内容、参加機関等、本学の学術交流活動の状況等について懇談が行われました。



## 5. 9 駐日マレーシア大使館参事官等

Mohd Khairul Adib A. Rahman 駐日マレーシア大使館参事官、Lim Poo Soon、高山靖子株式会社三菱総合研究所海外開発事業部研究員及び白石勝巳(財)アジア学生文化協会事務局次長が訪問され、マレーシアからの留学生の受入状況等について懇談が行われました。

## 5.18 カザフスタン人文・法科大学学長

Narikbaev Maksut Sultanovich カザフスタン人文・法科大学学長が来日したのを機会に本学を訪問されるとともに、部局との交流協定の実施状況について意見交換が行われました。



## 6. 5 陝西師範大学副学長等

張陝西師範大学副学長、張同国際交流・合作処処長、候同西北歴史環境変遷・経済社会発展研究センター主任、党同教務処処長及び陳同国際学院院長が訪問され、これまで研究者間で交流のあった文学研究科との公式な学術交流の可能性について意見交換が行われました。



## 6. 6 タシケント国立法科大学学長等

RUSTAMBAEF Mirzayusup タシケント国立法科大学学長、USMANOV Mnhammadadi 同副学長及び YUSUPOV Dilishod 同副学長が本学との間で学術交流協定を締結するため訪問され、今後の学術交流について懇談が行われました。



## 6. 8 ドイツ学術交流会東京事務所長

Dr.Irene Jansen ドイツ学術交流会 (DAAD) 東京事務所長が訪問され、ドイツと我が国の教育研究交流について懇談が行われました。



教員

受賞日	受賞名	所属・職名	受賞者	備考
H17.12.28	16th Symposium of Materials Research Society of Japan Certificate of Award for Encouragement of Research of Materials Science	大学院工学研究科助手	上坂 裕之	
H18. 2. 3	井上研究奨励賞	大学院理学研究科助手	出口 和彦	
H18. 3. 8	情報処理学会 第67回全国大会 優秀賞	エコトピア科学研究所助手	大平 茂輝	
H18. 3.14	John Bardeen 賞	特別教授	赤崎 勇	詳細は本誌158号 p.4参照
H18. 3.10	International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia Lectureship Award	大学院工学研究科教授	石原 一彰	
H18. 3.20	電気学会 優秀論文発表賞	大学院工学研究科助手	渡辺 賢一	
H18. 3.20	Kentucky Colonel	大学院環境学研究科教授	海津 正倫	
H18. 3.21	日本金属学会 増分量賞	大学院工学研究科教授	松井 正顯	
H18. 3.21	日本鉄鋼協会 学術功績賞	大学院工学研究科教授	石川 孝司	
H18. 3.25	第70回日本循環器学会 Young Investigate Award for International Student-The Excellence Prize	医学部循環器ゲノム応用診断学寄附講座助手	成 憲武	
H18. 3.28	永井科学技術財団 第23回永井学術賞	大学院工学研究科教授	社本 英二	
H18. 3.28	日本化学会 学術賞	大学院工学研究科教授	関 隆広	
H18. 3.28	日本化学会賞	物質科学国際研究センター教授	巽 和行	
H18. 3.28	日本化学会賞	大学院理学研究科教授	上村 大輔	
H18. 3.28	第17回日本天文学会 研究奨励賞	大学院理学研究科助手	吉田 直紀	
H18. 3.29	物理学会 論文賞	大学院理学研究科助教授	前川 展祐	
H18. 3.30	平成18年日本細菌学会 小林六造記念賞	大学院理学研究科助教授	川岸 郁朗	
H18. 4. 7	日本機械学会賞	大学院工学研究科教授	新美 智秀	森 英男 (大学院工学研究科講師) 他6名と連名
H18. 4. 8	日本機械学会賞 論文賞	日本学術振興会特別研究員	伊藤伸太郎	福澤健二 (大学院工学研究科助教授)、張 賀東 (大学院情報科学研究科助手)、三矢保永 (大学院工学研究科教授) と連名
H18. 4. 7	日本機械学会賞 教育賞	大学院国際言語文化研究科助教授	Haig Edward	石田幸男 (大学院工学研究科教授)、村田泰美 (名城大学助教授)、Men'shov Igor (大学院工学研究科助教授)、長谷照一 (長谷国際特許事務所) と連名
H18. 4. 8	水産海洋学会 論文賞	地球水循環研究センター教授	才野 敏郎	千葉早苗 (地球フロンティア研究システム)、広田祐一 (水産総合研究センター中央水産研究所)、長谷川誠三 (同水産工学研究所) と連名
H18. 4.18	平成18年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞 (研究部門)	大学院理学研究科教授	近藤 孝男	
H18. 4.18	平成18年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞 (研究部門)	大学院工学研究科教授	齋藤 弥八	上村佐四郎 (㈱ノリタケカンパニーリミテド) と連名
H18. 4.18	平成18年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	物質科学国際研究センター助教授	伊丹健一郎	
H18. 4.18	平成18年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	大学院情報科学研究科助教授	森 健策	
H18. 4.21	国際交通安全学会賞 (業績部門)	大学院環境学研究科教授	林 良嗣	
H18. 4.21	国際交通安全学会賞 (業績部門)	大学院環境学研究科助教授	加藤 博和	
H18. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	清家政一郎	詳細は本誌157号 p.4参照
H18. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	住友 宏	詳細は本誌157号 p.4参照
H18. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	鈴木 旺	詳細は本誌157号 p.4参照
H18. 5.12	平成17年度日本内分泌外科学会賞	医学部附属病院講師	今井 常夫	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	所属・職名	受賞者	備考
H18. 5.12	愛知県看護功労章	医学部保健学科	鈴木 和代	
H18. 5.18	第14回木原記念財団学術賞	生物機能開発利用研究センター教授	松岡 信	
H18. 5.18	東海化学工業会賞	エコトピア科学研究所 助教授	吉田 寿雄	
H18. 5.19	コンクリート工学協会賞 奨励賞	大学院環境学研究科助教授	丸山 一平	
H18. 5.20	映像情報メディア学会 フェロー	大学院工学研究科教授	谷本 正幸	
H18. 5.22	平成18年度日本学生相談学会 学会賞	発達心理精神科学教育研究センター教授	鶴田 和美	
H18. 5.23	日本気象学会 藤原賞	地球水循環研究センター教授	中村 健治	
H18. 5.25	自動車技術会 優秀講演発表賞	先端技術共同研究センター センター長、同教授	大日方五郎	
H18. 5.25	平成17年度地盤工学会 研究奨励賞	大学院工学研究科助手	中井健太郎	
H18. 5.25	高分子学会 平成17年度高分子研究奨励賞	大学院生命農学研究科 助教授	松見 紀佳	
H18. 5.25	高分子学会 平成17年度高分子研究奨励賞	大学院工学研究科講師	山本 智代	
H18. 5.26	土木学会田中賞（論文部門）	大学院工学研究科教授	伊藤 義人	貝沼重信（九州大学大学院助教授）細見直史（㈱東京鐵骨橋、梁研究員）、金 仁泰（釜山大学）と連名
H18. 5.26	土木学会 環境賞	大学院環境学研究科教授	林 良嗣	
H18. 5.26	土木学会 環境賞	大学院環境学研究科助教授	加藤 博和	
H18. 5.27	猿橋賞	大学院理学研究科教授	森 郁恵	詳細は本誌157号 p.4参照
H18. 5.27	日本塑性加工学会賞 優秀賞会田技術奨励賞	大学院工学研究科助教授	湯川 伸樹	
H18. 5.29	第86回日本化学会春季大会（2006）優秀講演賞	大学院工学研究科助手	片桐 清文	
H18. 5.29	日本機械学会機素潤滑設計部門 優秀講演賞	大学院工学研究科教授	梅原 徳次	
H18. 5.29	日本機械学会機素潤滑設計部門 奨励講演賞	大学院工学研究科助手	野老山貴行	
H18. 5.31	カンボジア王国政府 サハメトレイ3等勲章	農学国際教育協力研究センター教授	松本 哲男	
H18. 6. 3	弱視斜視学会賞中川賞	医学部附属病院助手	高井 佳子	
H18. 6. 3	医用画像情報学会賞	医学部保健学科	小寺 吉衛	
H18. 6. 6	三島海雲記念財団学術奨励賞（自然科学部門）	大学院医学系研究科助教授	鳥橋 茂子	
H18. 6.10	日本無機リン化学会 創立20周年記念日本無機リン化学会特別奨励賞	大学院工学研究科教授	大槻 主税	

## 事務職員・技術職員

受賞日	受賞名	所属・職名	受賞者	備考
H18. 4.29	春の叙勲 瑞宝双光章	元学生部次長	杉浦 茂次	詳細は本誌157号 p.4参照
H18. 4.29	春の叙勲 瑞宝単光章	元医学部附属病院看護部 看護師長	山口 政江	詳細は本誌157号 p.4参照
H18. 5.20	社団法人 日本顕微鏡学会 第11回技術功労賞 装置・理論部門	エコトピア科学研究所 技術職員	森田 千明	

学生

受賞日	受賞名	所属・学年	受賞者	備考
H17.11	IEEE Nuclear and Plasma Science Society Graduate Scholarship Award	大学院工学研究科 D3	Md. Abdur Razzak	
H17.12. 3	2005年度日本認知科学会大会発表賞	大学院情報科学研究科 D3	河野 直子	齋藤洋典（大学院情報科学研究科教授）と連名
H17.12.10	名古屋外国語大学通訳コンテスト優勝	大学院国際言語文化研究科 M1	松下 尚子	
H17.12.28	16th Symposium of Materials Research Society of Japan Certificate of Award for Encouragement of Research of Materials Science	大学院工学研究科 M2	北尾多喜男	
H17.12.28	16th Symposium of Materials Research Society of Japan Certificate of Award for Encouragement of Research of Materials Science	大学院工学研究科 M1	池野 大輔	
H17.12.28	日本 MRS 学会講演奨励賞	大学院工学研究科 M2	北尾多喜男	
H18. 2.24	日本塑性加工学会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M2	酒井 大志	
H18. 2.27	平成17年度資源・素材学会関西支部「若手研究者・学生のための研究発表会」 優秀発表賞	大学院工学研究科 D1	佐藤 史淳	佐野浩行（エコトピア科学研究所助手）、藤澤敏治（エコトピア科学研究所教授）と連名
H18. 3. 8	第6回 GSC シンポジウムポスター賞	大学院工学研究科 D1	レニ ユリアティ	伊藤秀章（エコトピア科学研究所教授）、吉田寿雄（エコトピア科学研究所助教授）と連名
H18. 3.10	情報処理学会 第67回全国大会学生優秀賞	大学院情報学研究科 M1	小酒井一稔	
H18. 3.10	情報処理学会 DBS/BCG/GN 合同研究会学生発表奨励賞	大学院情報学研究科 D1	山本 大介	
H18. 3.10	International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia Poster Presentation Award	大学院工学研究科 M2	近藤 玲	
H18. 3.11	第8回化学工学会学生発表会 優秀賞	工学部4年	菊本 俊介	二井 晋（大学院工学研究科助教授）、川泉文男（大学院工学研究科教授）と連名
H18. 3.13	第97回触媒討論会トピックス（注目の発表）	大学院工学研究科 M1	青木 正矩	
H18. 3.15	表面技術協会 第12回学術奨励講演賞	大学院工学研究科 D1	稗田 純子	齋藤永宏（大学院工学研究科助教授）、井上泰志（エコトピア科学研究所助教授）、高井 治（エコトピア科学研究所教授）と連名
H18. 3.16	精密工学会 研究奨励賞	大学院工学研究科 D3	有馬 則和	
H18. 3.22	応用物理学会 講演奨励賞	大学院工学研究科 D2	高柳 順	
H18. 3.22	応用物理学会 講演奨励賞	大学院工学研究科 D1	三浦 正志	
H18. 3.22	応用物理学会 講演奨励賞	大学院工学研究科 M2	野尻 康弘	
H18. 3.22	日本鉄鋼協会第151回春季講演大会 学生ポスターセッション努力賞	大学院工学研究科 M1	松島 光宏	
H18. 3.24	第38回日本原子力学会賞 奨励賞	大学院工学研究科 D2	遠藤 知弘	
H18. 3.25	日本生態学会 優秀賞	大学院環境学研究科 D1	富田 啓介	
H18. 3.26	電子情報通信学会2006総合大会 ISS 特別企画「学生ポスターセッション」 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	山代 大輔	
H18. 3.27	日本地理学会賞 奨励賞	大学院環境学研究科 D2	石川 菜央	
H18. 3.29	日本畜産学会第106回大会 優秀発表賞	大学院生命農学研究科 D2	倉知 恵美	
H18. 3.30	第2回日本生物物理学会中部支部討論会 奨励賞	大学院理学研究科 M2	入枝 泰樹	
H18. 4.12	日本結晶成長学会 講演奨励賞	大学院理学研究科 D2	勝野 弘康	
H18. 4.20	国際電気化学会春季大会 ベストポスター賞	大学院工学研究科 D3	岡本 健	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	所属・学年	受賞者	備考
H18. 4.25	物理学会 JPSJ 注目論文	大学院理学研究科 D2	片山 新也	鈴木順三（大学院理学研究科教授）、小林晃人（大学院理学研究科助手）と連名
H18. 5.15	日本化学会第86春季年会学生講演賞	大学院理学研究科 D3	鈴木 理子	
H18. 5.16	2006年度低温工学協会褒賞 優良発表賞	大学院工学研究科 D2	三浦 正志	
H18. 5.19	モレキュラーキラリティー2006 最優秀ポスター賞	大学院工学研究科 D1	永井 寛嗣	
H18. 5.19	モレキュラーキラリティー2006 学生ポスター賞（努力賞）	大学院工学研究科 M1	小林 晋三	
H18. 5.19	モレキュラーキラリティー2006 学生ポスター賞（優秀賞）	大学院工学研究科 M2	加藤 泰央	山本智代（大学院工学研究科講師）、上垣外正己（大学院工学研究科教授）、岡本佳男（名誉教授・エコトピア科学研究所客員教授）と連名
H18. 5.25	電子情報通信学会 パターン認識とメディア理解研究会平成17年度研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	佐藤 准嗣	高橋友和（日本学術振興会博士特別研究員）、井手一郎（大学院情報科学研究科助教授）、村瀬洋（大学院情報科学研究科教授）と連名
H18. 5.26	電子情報通信学会東海支部平成17年度学生研究奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	遠山 仁美	
H18. 5.26	Journal of Biological Chemistry Papers of the Week	大学院生命農学研究科 D2	野亦 次郎	藤田祐一（大学院生命農学研究科助教授）他2名と連名
H18. 5.29	第86回日本化学会春季年会（2006）学生講演賞	大学院工学研究科 D3	福本 晴彦	
H18. 5.29	第86回日本化学会春季年会（2006）講演奨励賞	大学院工学研究科 D3	森川 雄市	
H18. 5.29	第86回日本化学会春季年会（2006）講演奨励賞	大学院工学研究科 M2	酒井 大雅	
H18. 6.6	三島海雲記念財団学術奨励賞（人文科学部門）	大学院文学研究科 D3	福山 泰子	
H18. 6.8	エネルギー・資源学会 第10回芽奨励賞	大学院工学研究科 M2	南形 厚志	
H18. 6.8	日本保健物理学会学会賞 論文賞	大学院医学系研究科 D1	広藤 喜章	青山隆彦（医学部保健学科教授）、小山修司（医学部保健学科講師）、川浦稚代（医学部保健学科助手）と連名

\*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年5月16日～6月15日]

記事	年月日	新聞等名
1 やさしい経済学—人間の心と行動：投資家と株式市場 加藤英明・経済学研究科教授 株価にパターン	5.16 (火)	日経 (朝刊)
2 新エネルギー・産業技術総合開発機構は2006年度第1回産業技術研究助成事業として張賀東・情報科学研究科助手らの「化学的ナノ構造テクスチャによる超高密度磁気記録用機能性トライボ表面の創成」など73件を採択	5.16 (火)	日刊工業
3 12日～14日に行われた東海学生対校選手権の陸上5000メートルで、中村高洋さん・本学学生が優勝	5.16 (火)	中日 (朝刊)
4 第11回名古屋大学理学懇話会「宇宙開闢から現在へ $z=0-1-1000\cdots$ 」20日開催 國枝秀世・理学研究科附属南半球宇宙観測研究センター教授が「X線衛星すざくの見た、星、銀河、銀河団—1000兆倍のスケールをたどる」、杉山直・理学研究科教授が「ビッグバンから銀河が生まれるまで—140億光年の時間をたどる」と題して講演	5.16 (火)	中日 (朝刊)
5 医学部と薬学の実務実習で連携協定を結んでいる名城大学薬学部が、医学部附属病院外来病棟4階にサテライトセミナー室を開設	5.16 (火) 5.24 (水)	中日 (朝刊) 読売
6 天体物理学研究室 (福井康雄・理学研究科教授)は南米チリ・アタカマ高地に設置した超高性能電波望遠鏡「NANTEN 2」で、星の原料となるガスの固まり「分子雲」からの電波・サブミリ波の観測に初めて成功	5.16 (火)	中日 (夕刊)
7 相次ぐ研究者の不正 ルールづくりは…：理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授 科学研究の不正は法律で管理されるべき問題ではなく、指針は研究社会を活性化するものでなければならない	5.16 (火)	中日 (夕刊)
8 横田充弘・医学部教授らが遺伝子情報を元に生活習慣病になる危険性を診断し、その人に合った予防法作りを目的としたベンチャー企業「セラノスティック研究所」設立 横田教授は、「個人にあったオーダーメイドの予防法を作ることで、生活習慣病の発症はかなり防ぐことができる」と話す	5.17 (水)	読売
9 やさしい経済学—人間の心と行動：投資家と株式市場 加藤英明・経済学研究科教授 ゆがみは正せるか	5.17 (木)	日経 (朝刊)
10 名古屋市は、41の外郭団体を対象に経営実態を把握し、改善への助言や提案をする経営評価委員会を新設 税理士の神谷紀子・本学法科大学院非常勤講師ら7人の有識者が委員として給与水準の見直しなどをチェックする	5.17 (水)	中日 (朝刊)
11 名古屋市は、本年度の名古屋市行政評価委員会委員に木村彰吾・経済学研究科教授ら9人を決定	5.17 (水)	中日 (朝刊)
12 やさしい経済学—人間の心と行動：投資家と株式市場 加藤英明・経済学研究科教授 損失の確定はイヤ	5.18 (木)	日経 (朝刊)
13 名大祭医学部公開ツアーが27、28日に開催 27日には、鶴舞祭市民公開講座「ヒトとヒトの遺伝子配列の違いが教えてくれること」が開催される	5.18 (木)	朝日 (朝刊)
14 佐々木亨・本学名誉教授ら6人の連名で愛知県内の大学関係者らが教育基本法改正案に反対する緊急アピールを発表 21日には名古屋市民会館で中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授を講師に「学習討論市民集会」を開催	5.18 (木)	毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
15 やさしい経済学—人間の心と行動：投資家と株式市場 加藤英明・経済学研究科教授 過信は災いのもと	5.19 (金)	日経 (朝刊)
16 研究スポット：口腔がんの治療 耳前部の浅側頭動脈から栄養血管にカテーテルを入れて抗がん剤を注入し、放射線療養と併用する治療法が医学部附属病院と愛知県がんセンターで開発され、全国の拠点病院で行われている	5.19 (金)	中日 (朝刊)
17 愛知県弁護士会は憲法週間記念行事講演会「コノクニノミライ—憲法が変わればココロも変わる？」を20日に開催 精神科医の香山リカさんと憲法学者の森英樹・本学名誉教授が最近の憲法改正の動きについて対談する	5.20 (土)	読売
18 ほとけたちのイメージを探る：宮治昭・文学研究科教授 荘厳な西域独特の壁画	5.21 (日)	中日 (朝刊)
19 この人：岩坂泰信・本学名誉教授は、「経験的に砂粒には生き物がいると考えている。黄砂と生き物の関係を明らかにしたい」とバイオエアロゾル研究会設立の抱負を語る	5.21 (日)	中日 (朝刊)
20 やさしい経済学—人間の心と行動：投資家と株式市場 加藤英明・経済学研究科教授 赤信号皆で渡れば	5.22 (月)	日経 (朝刊)
21 全学教養科目「大学でどう学ぶか」に平野眞一総長が登壇し、「夢見る人々の努力で社会は変わり、発展する」と訴えた	5.23 (火)	中日 (朝刊)
22 JAXAは赤外線天文衛星「あかり」が試験観測で取得した高解像度、高感度の赤外線画像を公開 本学は「あかり」プロジェクトを支える基幹大学として、遠赤外線サーベイヤーの開発に参加している	5.23 (火)	日刊工業 他2社
23 やさしい経済学—人間の心と行動：投資家と株式市場 加藤英明・経済学研究科教授 永遠のテーマ	5.23 (火)	日経 (朝刊)
24 名大サロンの主役：木俣元一・文学研究科教授 人間がイメージを壊す	5.23 (火)	中日 (朝刊)
25 春日井市議補選欠員ミス 「参政権侵害」と批判の声 小野耕二・法学研究科教授は、「本来、立候補できる人の機会を奪ったことになり、公平性を損なっている」とし、「緊張感が足りない」と批判	5.23 (火)	読売
26 学生街ダンス：溝口祥子さん・本学学生 名大祭医学部研究公開 医療を身近に感じ関心を持ってほしい	5.23 (火)	中日 (朝刊)
27 金武直幸・工学研究科教授は名古屋市工業研究所と共同で、アルミニウム合金薄板の部分軟化プレス成形法を開発	5.24 (水)	日刊工業
28 日本教育法学会プレシンポジウム「教育基本法案を検討する—教育の自主性はどうか」26日に本学で開催 27日、28日には日本教育法学会研究大会を教育学部で開催	5.24 (水) 5.27 (土)	中日 (朝刊)
29 愛知憲法会議などによる「連続憲法講座2006」が6月10日から来年3月まで1で開催 講師の一人、本秀紀・法学研究科教授は、「憲法を通じて日本の今とこれからを考える講座にしたい」と話す	5.24 (水)	朝日 (朝刊)
30 「本当は楽しくて不思議な数学・算数の世界」6月3日から7月8日までの毎週土曜日開催 大沢健夫・多元数理科学研究科教授らが「つくってわかる図形の科学」をテーマに少人数ゼミ形式の講義を行う	5.24 (水)	朝日 (朝刊)
31 日本数学コンクールフォローアップセミナー「数理ウェーブ」27日開催	5.24 (水)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
32 美濃加茂市でも市議補選欠員ミス 磯部隆・法学研究科教授は、「条文の解釈という初歩的なミスだが、選挙の権利を考えると深刻。解釈を巡る疑問点を各選管で共有する仕組みを作るなど再発防止策を講じるべきだ」と話す	5.24 (水)	読売
33 教育基本法の改正案審議が国会で始まる 義務教育年限を削除し「別に法律で定める」とする案に対して、中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授は、「義務教育を含む学校制度全体が格差的に再編成される可能性がある」と指摘、「人格の完成」の側面がおろそかにならないか危惧する	5.24 (水)	朝日 (朝刊)
34 名古屋共立病院主催の講演会「がん免疫細胞療法—現状と展望」開催 名古屋共立クリニックがん免疫細胞療法センター長・吉田松年・本学名誉教授による治療成績の報告など	5.24 (水)	読売
35 先端融合領域イノベーション創出拠点の形成事業に本学など9つの産学共同提案が採択	5.26 (金)	日刊工業
36 防災ボランティアの全国組織「震災がつなぐ全国ネットワーク」が28日、環境総合館で新潟県中越地震の支援のあり方を考えるフォーラム「何をもって復興かを問う—人間力と地域力」開催	5.26 (金) 5.29 (月)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
37 7月に開院する JR 東海の総合病院「名古屋セントラル病院」に導入された最先端の医療機器公開 アジア初導入の脳腫瘍摘出が確実にいえる手術室システム「ブレインスイート」は、患部の3次元画像をインターネットで本学医学部脳神経外科学教室に送ることができ、手術の際は同教室が支援する	5.26 (金)	毎日 (朝刊)
38 愛知県豊橋市議会の第2会派で自民党系の「清志会」が、市民フォーラム21・NPO センターに市民ニーズの調査を依頼、その結果を生かして会派独自のマニフェスト作成へ 同センター代表理事の後房雄・法学研究科教授は「マニフェストは選挙で会派が統一して運動しなければ意味がない」と話す	5.26 (金)	朝日 (夕刊)
39 「第5回トランスレーショナルリサーチ懇話会」が26日に医学部附属病院で開催され、研究者ら約100人が参加 遺伝子・再生医療センター長の吉田純・医学系研究科教授は「ISOの管理の下、産官学で連携して開発、研究を進めたい」と話した	5.27 (土)	中日 (朝刊)
40 愛知県は、佐久間貞行・本学名誉教授を中心とする医療法人が計画中の「重粒子線」を利用した民間治療施設の建設を積極的に支援していく方針を固める	5.27 (土)	中日 (朝刊)
41 訃報：佐藤英美・本学名誉教授	5.27 (土)	読売 日刊工業
42 長野光太郎さん・本学相撲部員は「若い人に相撲の面白さを広めたい」と意欲を見せる	5.27 (土)	中日 (夕刊)
43 名大祭のプレ企画「鶴舞祭」が27日に医学部で始まる 練習用の機器を使った模擬手術の体験など	5.28 (日)	朝日 (朝刊)
44 ほとけたちのイメージを探る：宮治昭・文学研究科教授 鳩摩羅什とキジル壁画	5.28 (日)	中日 (朝刊)
45 この国のみそ：春日豊・文学研究科教授は、原価の3割を時計の外箱が占めていた明治後期に「箱用のホオノキ、ヒメコマツ、カツラなどは主に木曽材。ナゴヤはそれらを他地域の3分の1の値で買った」ことがナゴヤの時計の安さの源と語る	5.29 (月)	中日 (朝刊)
46 書評：「免疫実験法ハンドブック」中島泉・本学名誉教授編	5.29 (月)	日刊工業
47 40歳未満の若手の自然科学系研究者を国内外から公募 採用者は高等研究院に所属し、助教授級のポストと研究費、研究スペースを提供される 北住炯一・高等研究院長は、「日本ではポストドクが大勢いる。ポストドクが主体的に研究できる環境を用意することで、若い才能を見つけ出し、将来の名大を担える人材に育てたい」と話す	5.30 (火)	中日 (朝刊)
48 スポーツと名古屋大学：東田和弘・博物館助手 ロサンゼルス5輪男子水泳100メートル背泳ぎで金メダルを獲得した清川正二	5.30 (火)	中日 (朝刊)
49 インドネシアのジャワ島中部で起きた地震について、安藤雅孝・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は、「現地の建物は四隅に細い鉄筋があるだけで、ほとんどれんが積み。スマトラ島沖大地震は揺れがゆっくりだったので、保った建物が多かったが、今回は直下型で揺れが激しく、被害が広がった」と語る	5.30 (火)	日刊工業
50 学生街ダンス：大野好範さん・本学学生 今年も企画満載の「名大祭」	5.30 (火)	中日 (朝刊)
51 附属図書館友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」6月2日開催 秋山晶則・附属図書館助教授が「江戸の礼節」をテーマに話す	5.30 (火)	中日 (朝刊)
52 名古屋リウマチネットワークが6月18日に最近のリウマチ治療や福祉制度などを解説する市民公開講座を開催 代表の石黒直樹・医学系研究科教授ら4人が講演する	5.30 (火)	中日 (朝刊)
53 この人に聞きたい：加藤博和・環境学研究科助教授 今後の公共交通を構築していくために大切なのは利用者数を増やすために「よりよくしていこう」とする姿勢	5.31 (水)	朝日 (朝刊)
54 健康 東海プラザ：医療相談 後藤百万・医学部附属病院講師	5.31 (水)	読売
55 本学や愛知医科大学などが共同で、無重力状態で体の機能を保つ研究実験の被験者を募集	5.31 (水)	朝日 (夕刊)
56 名大脳外科セミナー「患者・市民中心の脳医療」10日開催 吉田純・医学部保健学科教授の講演など	6. 1 (木)	中日 (朝刊)
57 身近な活断層：丹那断層は日本の活断層の中でも最も活動度が高いA級活断層 林能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助手	6. 1 (木)	中日 (朝刊)
58 本学や九州大学、北海道大学などが参加する統合国際深海掘削計画の研究チームが北極海の海底地層を分析し、北極域が氷に覆われはじめたのは今から約4500万年前と解明	6. 1 (木)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
59 活発化するジャワ島のムラピ火山：火山活動が地震を誘発したケースもあるが、ジャワ島中部地震は、「ムラピ山から震源地まで50キロ以上離れており、火山活動が地震を誘発したとは思えない」と木股文昭・環境学研究所附属地震火山・防災研究センター教授は話す	6. 1 (木)	中日 (夕刊)
60 医学部附属病院新中央診療棟完成：井口昭久・医学部附属病院長は新中央診療棟の特色はトランスレーショナルリサーチ (探索医療) にあり、また「ナディック」と名付けたスペースの設置など「やさしい医療」の提供を目指していくと語る	6. 2 (金)	毎日 (朝刊)
61 総務省東海総合通信局と東海電気通信協会は、本年度の「電波の日・情報通信月間」記念式典を開催し、電波の利用や情報通信の発展に功労があったとして、片山正昭・エコトピア科学研究所教授ら個人2件、団体5件を表彰	6. 2 (金)	中日 (朝刊)
62 お茶の水女子大学で30日に森郁恵・理学研究科教授の「猿橋賞受賞記念公開講演会」開催	6. 2 (金)	日刊工業
63 名古屋市男女平等参画推進センターは「職場復帰準備セミナー」を1、2日に開催 村瀬聡美・発達心理精神科学教育研究センター助教授が講演し、「出産した女性が職場復帰して安心して働くためには家族の協力が不可欠」と語った	6. 2 (金)	中日 (朝刊)
64 研究スポット：アスベスト発がん 愛知県がんセンター研究所分子腫瘍学部の関戸好孝部長、研修生の谷口哲郎さん・本学大学院生らは、中皮腫の細胞特性を明らかにする研究に打ち込んでいる	6. 2 (金)	中日 (朝刊)
65 「第47回名大祭」が1日に開幕 テーマは「夢源」 名大祭本部実行委員会の広報局長・大野好範さん・工学部3年生は、「100種類以上の企画があり、来場者の気に入るものが必ずあるはず。あらゆる人に楽しんでもらいたい」と来場を呼び掛ける	6. 2 (金)	読売
66 本学に在学するインドネシア留学生らが、名大祭でインドネシアのジャワ島中部地震の被災者救援のためのチャリティーショップを設ける 実家が全壊し、両親が親類の元に避難しているというスパルディアナさん・本学学生は、「この悲劇に関心を持って、ショップに足を運んでほしい」と話す	6. 3 (土)	中日 (朝刊)
67 豊かさ再発見：熟練工などの人材を手工業職場や企業に代わって体系的に育てる制度は日本にはまだなく、寺田盛紀・教育発達科学研究科教授は、「コスト削減のため、企業内訓練の規模が大幅に縮小しているが、必要な人材を確保するためには、企業は本腰を入れて次世代の育成に取り組まなければならない。それには、資金面などでの公的支援も必要だ」と指摘する	6. 3 (土)	読売
68 24、25日に開催する第1回地球教室 (親子対象フィールドセミナー)「地球教室～二千万年前の環境を訪ねて」の参加者募集 博物館のスタッフらが講師を務める	6. 5 (月)	中日 (朝刊)
69 日本と中央アジア4ヶ国、アフガニスタンによる第2回外相会合が5日に行われ、本学や筑波大学との学術交流などを盛り込んだ行動計画で合意	6. 5 (月)	日経 (夕刊)
70 医学部脳神経外科は手術中に磁気共鳴画像装置 (MRI) を使って腫瘍細胞が残っていないかを確認する MRI 画像手術を導入 10日に開催される名大脳外科セミナーでは、この画像誘導手術が紹介される	6. 6 (火)	中日 (朝刊)
71 本学など4大学と1研究所が参加し、今年4月に発足した「超高压電子顕微鏡連携ステーション」の発足記念国際シンポジウムを9日に本学で開催	6. 6 (火)	中日 (朝刊)
72 時のおもり：総合研究大学院大学教授・池内了・本学名誉教授 テレビ報道に重い問い掛け	6. 6 (火)	中日 (朝刊)
73 野村宏之・工学研究科教授らが中心となり、トヨタ自動車、アイシン高丘、新東工業と共同で鑄造場の中核人材を育成する講座を7月に開講	6. 7 (水)	日刊工業
74 名古屋市はモノづくり文化の発信を目指す産業技術未来博物館構想について有識者から意見を聞く懇談会を設置 委員は福田敏男・工学研究科教授ら16人で20日に初会合を開く	6. 7 (水)	中日 (朝刊)
75 シンドラー社製エレベーター事故：本学でも大学院情報科学研究科にあるシンドラー社製のエレベーターで2000年12月に人が閉じこめられるなどのトラブルが起きている	6. 8 (木) 6. 9 (金)	朝日 (朝刊) 他3社
76 名古屋市は、木村彰吾・経済学研究科教授ら5人の有識者でつくる「公の施設のあり方研究会」を12日に設置	6. 8 (木)	中日 (朝刊)
77 老年学：井口昭久・医学系研究科教授 1つの課題をじっくりと	6. 8 (木)	朝日 (朝刊)
78 訃報：田内久・本学名誉教授	6. 8 (木)	中日 (朝刊) 他4社
79 国立大学と国立高等専門学校、大学共同利用機関を含む146機関を対象とした文部科学省の調査で、2005年度に技術移転による実施料収入があったのは48機関、総額4億4600万円で、このうち、1000万円を超えるのは2億円の 本学など8大学と判明	6. 8 (木) 6. 9 (金) 6.10 (日)	朝日 (夕刊) 日刊工業 中日 (朝刊)
80 東海地方5月の地震：林能成・環境学研究所附属地震火山・防災研究センター助手	6. 9 (金)	読売
81 桃花台線線線 根づかなかった軌道：森川高行・環境学研究所附属交通・都市国際研究センター教授は、「公共交通は世界的に見ても、そもそも黒字化するのが難しい。自分たちの公共交通という意識を持って地域で手を差し伸べなければ成り立たない」と話す	6. 9 (金)	日経 (朝刊)
82 アザラシ型ロボット「パロ」を、本学出身でパロを開発した柴田崇徳・産業技術総合研究所主任研究員が寄贈し、「パロには名大で学んだ成果が生かされている。後輩たちに研究の最終形を紹介することで、研究の動機づけにしてほしい」と話す	6. 9 (金) 6.10 (土)	日刊工業 他3社

## 本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成18年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
83 本学和式馬術部が、教育学部附属中・高等学校運動場で木曾馬による流鏝馬など伝統の馬術を初めて披露 110メートルの区間に2つの的を置き、烏帽子・直垂姿で小倉脩平さん・本学学生らが鏝矢を放つと、集まった約350人の見物人から歓声があがった	6.11 (日)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
84 ほとけたちのイメージを探る：宮治昭・文学研究科教授 小像ながら気品に富む西域の木彫仏	6.11 (日)	中日 (朝刊)
85 「高校生防災セミナー」が10日に開催され、県内の高校生40人が参加 福和伸夫・環境学研究科教授が「必ず出会う巨大地震とどう向き合うか」をテーマに講義した後、高校生らは班に分かれて意見交換を行った	6.11 (日)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
86 連続憲法講座2006「い・ま・こ・そ・憲法」が10日に始まる 第1回の講座では、愛敬浩二・法学研究科教授が『『新憲法草案』で日本はどうか？—国民投票法案への向き合い方』をテーマに話した	6.11 (日)	中日 (朝刊)
87 日本、中国、韓国などの化学会は共同で、アジア地域の研究成果を集めた国際学術誌「ケミストリー・アジア・ジャーナル (CAJ)」を7月に創刊する 理化学研究所理事長・野依良治・本学特別教授が初代編集長に就任	6.12 (月)	日経 (朝刊)
88 山本尚・本学名誉教授が2006年度のテトラヘドロン賞受賞者に決定	6.13 (火) 6.15 (木)	読売 他3社
89 SOBA プロジェクトが遠隔医療支援ソフトを開発し、医学部附属病院と名古屋市内の診療所5ヶ所をつなぐ実証実験を始めた	6.13 (火)	日経 (朝刊)
90 名大サロンの主役：唐澤かおり・環境学研究科助教授 人の心の偏りと判断力	6.13 (火)	中日 (朝刊)
91 訃報：室井力・本学名誉教授	6.13 (火)	中日 (朝刊) 他2社
92 13日に選出された名古屋市人事委員会の新委員長・小林素文・愛知淑徳学園理事長は、委員長職務代理に林光佑・本学理事を指名	6.14 (水)	中日 (朝刊)
93 レーザー：エコトピア科学研究所が文部科学省認可の研究所として新たなスタートを切り、平野真一総長は、「環境調和型社会の実現が使命だ」と語る	6.15 (木)	日刊工業

# 平成18年度名古屋大学公開講座

## ■全学企画

テーマ：【あなたの見えない世界を探る】－名古屋大学の最先端研究－  
 内容：小さすぎて見えない極微の世界、逆に、巨大すぎて見えない宇宙の全体像、遠すぎて見えない世界の隅々、時間を隔ててしまっているために直接見ることのできない過去や未来、抽象的で非物質的であるためにそもそも見るということが意味をなさない数学的対象や情報、心、これらの「あなたの見えない世界」を探る「科学」という活動の現在をお伝えします。

開講日時：平成18年8月22日(火)～10月10日(火)の原則火・木曜日（全15回）  
 午後6時～7時30分

会場：名古屋大学シンポジオンホール

修了証書：10回以上出席の方に修了証書を授与します。

募集定員：200名（先着順）

受講料：9,200円

申込期間：平成18年7月3日(月)～8月18日(金)

後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

問合せ先：研究協力・国際部社会連携課 TEL：052-789-2040



回	テーマ	所属・職名	担当講師名
1	心を見えるようにするために	大学院教育発達科学研究科教授	村上 隆
2	弦理論への誘い－素粒子理論の最先端－	大学院多元数理科学研究科助手	森山 翔文
3	素粒子の世界をみる	大学院理学研究科教授	大島 隆義
4	過去の地球環境と生物を探る	大学院環境学研究科助教授	氏原 温
5	環境と微生物	大学院医学系研究科教授	太田美智男
6	植物の形作りの場を観察する	大学院生命農学研究科助教授	佐藤 豊
7	赤外線で暗闇を覗き、ヴェクトル波の偏りでガスと塵とを弁別する	大学院理学研究科教授	佐藤 修二
8	リモートセンシングで宇宙から地球を見る	大学院環境学研究科教授	山口 靖
9	日常生活の中の経済学；見えざる秩序	大学院経済学研究科教授	奥村 隆平
10	5万年前の言語の跡形	大学院国際言語文化研究科教授	近藤 健二
11	連邦主義から見えるヨーロッパ	大学院法学研究科教授	北住 炯一
12	次世代ユビキタス・ネットワークを探る	大学院工学研究科助教授	河口 信夫
13	ナノテクノロジーを使った新しいモノづくり	大学院工学研究科教授	堀 勝
14	日本考古学における暦年代の刷新とその評価	大学院文学研究科教授	山本 直人
15	千年持続社会をめざして	大学院環境学研究科助教授	高野 雅夫

(注) 講師の都合または天候により、一部日程が変更されることがあります。

■ラジオ放送公開講座「名大リレーセミナー」

テ ー マ：自然・社会環境と衣・食・住  
 放送日時：平成18年7月2日(日)～9月3日(日)の毎週日曜日（全10回）  
 午前6時30分～7時  
 放 送 局：東海ラジオ放送（1332kHz）  
 問合せ先：研究協力・国際部社会連携課 TEL：052-789-2040

回	テ ー マ	所属・職名	担当講師名
1	水資源の問題	地球水循環研究センター教授	安成 哲三
2	ユビキタス社会	大学院情報科学研究科教授	安田 孝美
3	おいしい卵がたくさんできる秘密	大学院生命農学研究科教授	島田 清司
4	安心して暮らし続けるためのリスクマネジメント	大学院環境学研究科教授	森 保宏
5	インターネット社会に於けるセキュリティ	情報連携基盤センター助教授	竹内 義則
6	土壌地下水汚染をめぐって	エコトピア科学研究所教授	片山 新太
7	政府の役割と市場の役割	大学院経済学研究科教授	竹内 信仁
8	エネルギーと環境	エコトピア科学研究所教授	北川 邦行
9	科学技術がもたらす健康問題を考える -アスベストとシックハウス-	大学院医学系研究科助教授	上島 通浩
10	スポーツとファッション	総合保健体育科学センター講師	高橋 義雄

■部局企画

講座等名	内 容	開催日時	会 場	対象・定員	受講料	問合せ先
健康開発のための運動基礎理論	運動指導のための基礎理論について学び、より効果的な健康増進プログラムの企画・運営や実践指導に役立ててもらいます。	8/5～8/6 10:00～15:00	学内	健康増進指導をおこなっている者 30名 事前申込必要	6,200円	総合保健体育科学センター事務掛 052-789-3946
スポーツ科学は面白い	3月下旬～9月に博物館において「スポーツと名古屋大学」特別展示を開催。この催しに合わせ、スポーツに関心のある学生や市民を対象に連続公開講座を実施します。	4月～9月頃 (未定) 11回 (1回1.5時間) 14:45～16:15	名古屋大学 博物館 3階講義室	スポーツに関心のある学生・一般市民 80名 事前申込不要	無料	博物館事務室 052-789-5767
数学アゴラ夏期集中コース	大学レベルの内容の集中授業を行い、数学の面白さを伝えます。	8/10～8/12	名古屋大学 理学部1号館	高校生、高校教員 約100名 事前申込必要	無料	大学院多元数理科学研究科 052-789-4746
数学アゴラ継続コース	大学レベルの数学のトピックの講義と演習を通じて、数学の面白さを伝えます。	10/1～12/15の 間の3～4日 日程・時間未定	名古屋大学 理学部1号館	高校生、高校教員 約60名 事前申込必要	無料	大学院多元数理科学研究科 052-789-4746

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**3月22日(水)～9月30日(土)**

場 所：博物館展示室  
時 間：10時～16時  
休 館 日：日・月曜日  
入 場 料：無料

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

## 第9回名古屋大学博物館特別展

テ ー マ：スポーツと名古屋大学ーする・みる・つくるー



**7月16日(日)～17日(祝)**

場 所・時 間：  
7月16日 9時～  
中津川市鉱物博物館にて見学、その周  
辺にて鉱物採集  
7月17日 午後～  
名古屋大学博物館にて事後学習  
定 員：30名  
対 象：小学3年生～中学3年生及び  
その保護者

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

## 第2回地球教室（親子対象フィールドセミナー）

テ ー マ：鉱物をさがそう

**7月25日(火)**

場 所：高等総合研究館6階  
カンファレンスホール  
時 間：17時～

[問い合わせ先]  
研究協力・国際部研究支援課高等研究院掛  
052-788-6051

## 第13回高等研究院セミナー

講演者Ⅰ：石浦 正寛 遺伝子実験施設教授  
演 題：生物時計分子装置の作動原理の原子レベルでの解明に向けて  
講演者Ⅱ：後藤 節子 医学部保健学科教授  
演 題：周産期女性のマタニティ・ブルーズおよび産後うつ病に関する  
文理複合的研究



**7月26日(水)**

場 所：博物館講義室  
時 間：14時45分～16時15分  
入 場 料：無料

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

## 第57回特別講演会

講 演 者：竹之内 隆志 総合保健体育科学センター助教授  
演 題：スポーツと心の発達

**8月5日(土)**

場 所：生命農学研究科附属農場  
「農業館」(東郷町諸輪畑尻94)  
時 間：14時～16時  
募集人員：60名  
参 加 費：無料

[問い合わせ先]  
生命農学研究科附属農場事務掛  
0561-37-0210

## 地域貢献特別支援事業

### 「都市近郊の農業教育公園・講演会」

テ ー マ：地球のもう一つの成功者昆虫に学ぶ  
講 演 者：田中 利治 生命農学研究科教授  
演 題：昆虫を食う虫と昆虫に食われる虫

名大トピックス No.158 平成18年7月15日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail [kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp](mailto:kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp)

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ  
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>) でもご覧いただけます。

#### 表紙

夏の夜空にうかび上がる  
IB電子情報館  
(平成18年6月23日)



## 51 日本学士院賞と名古屋大学

日本学士院は、1879（明治12）年に福沢諭吉を会長に創立されて以来の歴史を持ち、現在は学術上の功績顕著な科学者を優遇するための文科省特別機関として、さまざまな事業を行っています。そして同院が授与する日本学士院賞は、日本の学術賞としては最も権威ある賞です。

名古屋大学における歴代受賞者は、広報室が毎年発行している『名古屋大学プロフィール資料編』に一覧が掲載されています。名大史上の初受賞は、1926（大正15）年、当時愛知医科大学（医学部の前身）教授、のち名大第3代総長となる勝沼精蔵名誉教授です。以来、恩賜賞を含め、これまで22人が日本学士院賞（戦前は帝国学士院賞）を受賞しているとされてきました。その中には、ノーベル賞を受けた野依良治特別教授の名前もあります。

しかしこのたび、附属図書館医学部分館長の山内一信教授から、『プロフィール』の一覧は小口忠太名誉教授の名前が落ちているのではないかとの指摘がありました。

小口名誉教授は眼科を専門とし、1919年に愛知県立医学専門学校の講師となり、1923年には愛知医科大学学長に就任しています。1939（昭和14）年、名古屋帝国大学の教授となり、その直後に定年退官しました。小口病の発見で国際的にも著名な医学者です。

大学文書資料室で調査したところ、1933年に小口が受賞したのは、厳密には「帝国学士院賞」ではなく、帝国学士院が授与する「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」であることが分かりました。東宮（皇太子）、のちの昭和天皇の結婚を記念して創設された賞です。

ただ当時の帝国学士院賞にしても三井家と岩崎家からの寄付によるものであり、さらに1944年には同記念賞と帝国学士院賞が合併しているのですから、これを学士院賞受賞者としてもさしつかえないと思います。

先月発行の本年度版『プロフィール』には、小口忠太の名前を載せました。受賞者は23人となったわけです。



- 1 小口忠太（1875－1945）とその胸像（『日本医学のパイオニア（1）』より）。胸像は退官記念に門下生が製作し、名古屋帝国大学に置かれたが、空襲によって破壊されてしまった。
- 2 勝沼精蔵（1886－1963）。1949年から59年まで10年にわたり総長を務め、1954年には文化勲章を受けた。
- 3 野依良治特別教授。1995年に日本学士院賞を受賞した後、2001年にノーベル化学賞を受けた。
- 4 『名古屋大学プロフィール資料編』（2004～2006年）。名大の基礎データを網羅しており、学外者への利便と同時に、学内者も重宝する一冊である。